東京歯科大学同窓会会報

2005年2月　344

東京歯科大学同窓会会報　第344号

目　　次

巻 頭 言……1
お知らせ……2～4
VOICE ……5
理事会のうごき……5～6
保　　険……7～11
学　　術……12～13
母校だより……14～17
支部のうごき……18～28
クラス会だより……28～30
OB会・グループ・サークルだより ……31～32
庶務日誌……33
逝去会員・追悼……34～35
へんしゅうこうき……36

（表紙　野村　淳）

今は昔　卒業アルバム・私のアルバムから　新葉会　(昭和63年卒)

こだわりの集合写真

いまでも同じだと思うが，学生が卒業間際に企画実行するビッグイベントが三つある。一番切実な卒業(国家）試験対策，華やかな謝恩会，そして卒業アルバムの発行である。私は「へたの横好き」から卒業アルバムの代表を引き受けることになった。

卒業アルバムは終生残るものだから悔いのないものを作ろうと，私を始め委員一同，各所にこだわりを持って編集を進めた。

白熱灯に柔らかく照らし出された血脇先生の大理石像から始まる私たちのアルバムは，そんな私のこだわりが随所にちりばめられている。

前ページの集合写真もそんなこだわりの一枚である。

私の構想としては，クラスの集合写真は，卒業を控えた「青空に映える白衣の集団」を表現したかったので，撮影にあたってはクラスの全員はもちろん，主任・副主任の先生方にも白衣の着用をお願いした。ところが，撮影当日はあいにく曇天でNG。第二候補日は見事に晴れ渡り，成功を予感させたが，撮影を依頼した写真屋からダメが出た。「風が強すぎて，髪が舞う」という理由だった。そして三度目の正直。漸く思う通りの写真が撮れた。

「こだわり」は，裏を返せば「わがまま」になることは十分承知しているが，ご多忙中にも拘らず，そんな私にお付き合い戴いた主任・副主任の先生方，クラスの諸兄に対し，ここに改めてお詫びを申しあげる次第です。

さて，時は移り，卒業10周年記念のクラス会で再び集合写真を撮影することになった。今度はホテルの写真館だったので天気の心配はなかったが，人数に対してスタジオが狭すぎた。しかし，ここで妥協するようではダメである。渋面を作る担当者をなんとか口説き落とし，定員を遥かにオーバーしているにも拘らず，無理に撮影したのが下の写真である。みな窮屈そうにしているのがおわかりいただけると思う。しかし全員が一枚の写真に写っていることに意義があるので，これはこれでよかったと思っている。

このように写真に関してはいつもわがままを言わせて戴いているが，撮影の瞬間，当の本人はそんなことはおくびにも出さず，終始にこやかにしている。その証拠に，二枚の写真とも白い歯を見せているのは私だけである。

（渡邊宇一 記）

巻　頭　言

創立110周年を記念して

専務理事
安　藤　三　男

新年おめでとうございます。昨年は天災，人災の年であり，歯科界の内外を問わず，厳しい年でありましたが，本年こそ同窓の皆様にとりまして，良い年でありますよう心から祈念致したいと思います。

昨秋の評議員会では前年度決算，次年度予算等全ての議案を承認して頂き，評議員の先生方に厚く御礼申しあげます。この評議員会で天野会長は次のような挨拶を行いました。

新潟の中越地震や全国各地で水害等の被災者の皆様へのお見舞いの言葉を述べた後，日本歯科医師会の中医協関連の贈収賄事件に触れ，「我が同窓から逮捕者が出ましたが，これは診療報酬の医科歯科格差是正に向けた結果であり，自らを犠牲にし誠心誠意取り組んでくれました。既に判決は下されておりますが，行政処分等の全ての決着がすみ次第，その労をねぎらい，適切な対応策を講じたいと考えております。また，大学当局との連携を深め臨床研修医制度への全面協力，我が同窓の歯科界に対する医政面の強化，平成17年度に関わる経費を出来るだけ節約し，更なる財政の健全化を図りたい。」という内容のものでありました。

5期目の天野執行部がスタートした当初，①同窓会経常部経費の更なる節減，②女性会員の声を会務に反映させる，③全国理事会で地区選出理事のご意見をお聞きし会務へ反映する，等の目標を掲げ会務執行にあたってきましたが，1年経過した今日，一応の成果をみました。

本年は昨年積み残しとなっていました「会員種別並びに会費問題検討委員会」の答申書を検討し，秋の評議員会まで何等かの結論を出します。これは18年度から必修化となる臨床研修医の他大学出身者及び本学の大学院生の他大学出身者の同窓会での位置付け，また会費納入率のアップ等の問題に答申を頂きましたが，理事会等で検討する時間がなく，今年に持ち越されたものであります。

また，本年は同窓会創立110周年にあたり，一応の節目の年でもあります。昨秋の評議員会で，大学の連携の中で目に見えて形が残るよう大学を支援したらどうかとの要望もありましたが，活躍した本学の学生に何かそういう形での表彰を卒業式に行い，110周年の記念にしたらどうかという声もあります。役員会等が充分検討してまいります。そしてこの3月，全国の歯科医師会の役員選挙があります。若い優秀な同窓が国民歯科医療の向上の為に活躍できますよう，充分な支援体制をとりたいと考えております。

問題は山積しておりますが，執行部一丸となって一つひとつ解決してまいりますので，天野執行部に対して同窓の皆様の格段のご支援，ご理解を賜わりますようお願い致します。

お　知　ら　せ

理事会より

●より柔軟な弔慰金支払いに!!

現行は死亡弔慰金を支部長経由で遺族にお渡ししておりましたが，本年度より原則支部長経由とし，直接遺族に振り込む事も可能と致しました。どちらの方法をとるか会員死亡報告書に記載の上，ご報告お願い致します。

同窓会事業・行事

●第34回同窓会主催全国ゴルフ大会

と　き　　平成17年９月８日(木)

ところ　　埼玉県 霞ヶ関カンツリー倶楽部

●平成17年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会

と　き　　平成17年11月19日(土)

ところ　　如水会館（千代田区一ツ橋２丁目）

●TDC 卒後研修セミナー2005プログラム

臨床実技セミナー

No.１「MTM の実際」　　平成17年４月９日(土)・10日(日)

No.２「明日からはじめるために必要なインプラントの基礎」　　５月21日(土)・22日(日)

No.３「フラップオペレーションの実技」　　６月４日(土)・５日(日)

フォーラム

No.４「歯科医としての生涯研修 ～榊原悠紀田郎先生と共に語る～」　　７月９日(土)

シンポジウム

No.５「高齢社会から求められているもの ……そして歯科界の今」　　７月10日(日)

ベーシックセミナー

No.６「患者さんとながくかかわるために ～かかわりの一歩は記録から・記録の活用・患者説明・経過観察の第一歩～」　　９月11日(日)

フォローアップセミナー

No.７「ここはどうするの？MTM ～MTM・解決の糸口～」　　10月２日(日)

No.８「こんな時どうするの？フラップオペレーション ～フラップオペレーション・成功の秘訣」　　11月13日(日)

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術部　Tel.03－5275－1761

地域支部連合・支部関係

●地域支部連合会会長の交替

平成17年１月１日付交替

東海地域支部　瀧　義孝 氏（37卒）
前連合会長　大津　憲一 氏（36卒）

●支部長交替

平成17年１月１日付交替

横浜中央支部　加藤木　健 氏（46卒）
前支部長　森田　稔彦 氏（43卒）
神奈川西湘支部　高橋　正義 氏（38卒）
前支部長　寺尾　一栄 氏（39卒）
神奈川相北支部　村山　正之 氏（46卒）
前支部長　渋谷　利雄 氏（26卒）
千代田支部　大曽根正克 氏（46卒）
前支部長　鹿島　隆雄 氏（38卒）
玉川支部　朝長　寛 氏（48卒）
前支部長　田村　千秋 氏（48卒）
深川支部　和泉　正行 氏（46卒）
前支部長　山口　弘祐 氏（38卒）
北信支部　水橋　巖 氏（43卒）
前支部長　土屋　博 氏（37卒）
中信支部　犬飼　康元 氏（38卒）
前支部長　笠原　亨 氏（36卒）
東信支部　小池平一郎 氏（46卒）
前支部長　村居　正雄 氏（37卒）
岐阜県支部　小川　敏彦 氏（41卒）
前支部長　古田　一男 氏（31卒）
島根県支部　髙木　瑞穂 氏（41卒）
前支部長　吉田　滋美 氏（33卒）
山口県支部　楊井　孝 氏（49卒）
前支部長　財満　詔次 氏（46卒）

平成17年１月18日付交替

城東支部　伊従　明 氏（51卒）
前支部長　山田　英夫 氏（46卒）

母校関係行事・案内

●平成17年度東京歯科大学入学試験

一般入試（Ⅱ期）　平成17年３月12日（土）
詳細は340号（６月号）14頁～15頁に掲載

●第110回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式

と　き　平成17年３月25日（金）午前10時
ところ　東京歯科大学千葉校舎講堂

●平成17年度東京歯科大学入学式

と　き　平成17年４月５日（火）午後１時
ところ　東京歯科大学千葉校舎講堂

●第110回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式

と　き　平成17年３月11日（金）午後１時
ところ　東京歯科大学千葉校舎講堂

●平成17年度東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式

と　き　平成17年４月４日（月）午前10時
ところ　東京歯科大学千葉校舎講堂

●平成17年度東京歯科大学学会

第279回　例会　平成17年６月４日（土）
演題締切　４月19日（火）

第280回　総会　平成17年10月15，16日（土，日）
演題締切　８月30日（火）

平成17年度理事会・常任理事会，卒後研修セミナー，広報部委員会
年 間 開 催 日 程 表

理事会・常任理事会		卒後研修セミナー		広報部委員会	
開催日	区　分	開催日	研修内容	開催日	作業内容
1月15日(土)	第1回　理事会			1月12日(水)	2月号編集
2月16日(水)	第1回　常任理事会			2月10日(木)	4月号企画
3月16日(水)	第2回　常任理事会			3月10日(木)	4月号編集
4月13日(水)	第3回　常任理事会	4月9日(土)	臨床実技セミナー（MTM）	4月11日(月)	6月号企画
4月22日(金)	監査会	4月10日(日)	臨床実技セミナー（MTM）		
5月14日(土)	第2回　理事会	5月21日(土)	臨床実技セミナー（インプラント）	5月11日(水)	6月号編集
		5月22日(日)	臨床実技セミナー（インプラント）		
6月15日(水)	第4回　常任理事会	6月4日(土)	臨床実技セミナー（FOP）	6月10日(金)	8月号企画
		6月5日(日)	臨床実技セミナー（FOP）		
7月13日(水)	第5回　常任理事会	7月9日(土)	フォーラム	7月11日(月)	8月号編集
		7月10日(日)	シンポジウム		
				8月24日(水)	10月号企画
9月14日(水)	第6回　常任理事会	9月11日(日)	ベーシックセミナー	9月12日(月)	10月号編集
10月15日(土)	第3回　理事会	10月2日(日)	フォローアップセミナー（MTM）	10月11日(火)	12月号企画
11月18日(金)	第4回　理事会	11月13日(日)	フォローアップセミナー（FOP）	11月11日(金)	12月号編集
11月19日(土)	評議員会・定時総会				
12月17日(土)	第5回　理事会			12月5日(月)	平成18年2月号企画
				平成18年1月11日(水)	2月号編集
(理事会5回・常任理事会6回)					
1．理事会 土曜日　午後2時30分 水道橋校舎特別会議室（5階） （会長・副会長連絡会 午後1時00分） 2．常任理事会 水曜日　午後5時00分 水道橋校舎　1階 同窓会会議室		1．卒後研修セミナー 1）セミナー開催時間 4月9日（土）13：00～ 4月10日（日）9：30～ 5月21日（土）10：00～ 5月22日（日）9：30～ 6月4日（土）13：00～ 6月5日（日）9：30～ 7月9日（土）13：00～ 7月10日（日）9：30～ 9月11日（日）9：30～ 10月2日（日）9：30～ 11月13日（日）9：30～ 2）セミナー会場 水道橋校舎　2階 血脇記念ホール		1．時　間 午後6時30分～ 2．場　所 水道橋校舎　1階 同窓会会議室	

V O I C E

安定した医療の評価を

東海地域理事　喜　田　正　昭

今年は災害が日本中を駆けめぐり我々歯科界にも嵐が吹きあれた年でした。マスコミは信頼失墜と大々的に書いておりましたが，一般診療所における歯科医師と患者との信頼は損ねているとは思いません。しかし日本を代表する日本歯科医師会としては，信頼回復はもちろんのこと社会的責任において公益法人としての責任ある対応で取り組んでゆかねばならないと思います。VOICE を書き始めた今日は12月８日，忘れもしない大東亜戦争勃発の日である。小生小学校１年であったが校長の訓辞で戦争が始まったことを知ったのであった。大人達は大変だ大変だと言って走り廻っていたのを覚えていただけである。小４年の時終戦になったが親兄弟皆して泣いたことも覚えている。この時代はよきにつけ悪しきにつれ日本人は一体感をもった時であった。現在は国民の一体感と言う感じは皆無，自由自由の名のもとに勝手に生きていることは，はなはだ悲しいことである。小生は歯科医師の父のもと，その環境の中で育ち，先生先生と親しみのある声で呼ばれる父の姿を見，患者とのつきあい方，時には患者に経済的な助けを行っていたのを見て歯科医は皆に尊敬されて素晴らしいと思っていた。今思うに歯科医は経営等考えずに治療に専念できたのである。現在はどうであろうか。世の中が変わったとはいえ医療が経営になってきたのである。ここに医療に対する保険制度の不当評価が問題になっていることは歯科医師全てが知っていることである。一般開業歯科医が一人の患者に対応する時間は他の開業医師よりも長く，またストレスも多い。よく医科と歯科の格差是正と言われるが是正だけでなく歯科の特殊性を強く打ちだしてゆかねばならないし又保険点数の中身をみても診療所では日常的にあまり行われていない項目が沢山ある。私見であるが診療所と病院での保険点数を別々に作るべきと思っている。点数改正をみても中身をいじるだけ。よく患者へのサービスはどうのと書かれているが思いやりのある治療をし毎日苦労している歯科医師へのサービスはどうなのか，良き医療を提供せよと申している反面歯科医師は労働過多であまりにも犠牲が多いのではないか，医療という業種は安定した経済状態と安定した心の状態なくして良い医療はできない。ここで愚痴を言ってもはじまらないが中医協では堂々と討論し時には喧嘩ごしで歯科医師の実情を訴え理解させるためには理論を構築し論戦を積み重ねてゆく，ものごとはこちらから望まなければ何も動いてゆかない。動かす為には論戦でしかないと思っている。小生終戦を敗戦というのがきらいで今でも敗れると言う言葉はきらいである。妥協は許されない時期にきているのである。徹底した論戦で医療の真価を勝ちとらねばならない。

理事会のうごき

第６回理事会

平成16年11月19日（金）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　嘱託３名を含め30名
議長　清藤副会長

会長挨拶

この１年間の集大成を充分に審議して明日の評議員会に臨むよう挨拶。

黙　　祷

東信支部・手塚　稔氏他８名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。

会務報告

(1)　平成16年10月17日から12月26日までの日程について報告。
(2)　平成16年度同窓会評議員会時間表を配布して役員の役割分担などを報告。
(3)　評議員会出席者予定人員を報告。
(4)　評議員会代理出席届を報告。
(5)　評議員・役員名簿を配付，評議員数および役員数を報告。
(6)　平成16年度秋の叙勲受章者について次の会員が叙勲受章の栄誉に浴されたことを報告。

瑞宝中授章　大野虎之進 氏（東京都・推薦会員）
旭日双光章　宮島　　宥 氏（長野県・昭22卒）
旭日双光章　生田　博康 氏（東京都・昭27卒）
旭日双光章　湯澤　哲郎 氏（栃木県・昭31卒）
瑞宝双光章　岡野德一郎 氏（滋賀県・昭27卒）

(7) 平成17年１月第１回理事会予定を報告。
(8) 本会副会長・梅田昭夫氏，同嘱託・平井泰行氏２名の辞職願いを平成16年10月16日付で受理したことを報告。
(9) 平成16年度会計現況報告について１月から10月までの収支状況を報告。
(10) 平成16年度冬季期末手当を減額して支給することを報告。
(11) 12月を目処に日歯改革検討委員会の答申書が提出されることを報告。
(12) 学術講演会助成金の支出について１件報告。
(13) 学術講演会講師派遣交通費の支出を４件報告。
(14) TDC 卒後研修セミナー2005の日程，内容を報告。
(15) 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップの日程，受講申し込み先など報告。
(16) 平成17年会報の巻頭言執筆予定者について説明。
(17) 平成16年度版会員名簿の発送状況，作成費用などを報告。
(18) 平成16年度逝去会員は11月９日現在で累計117名，規定により弔慰共済金を支給したことを報告。
(19) 罹災共済金を３件支給したことを報告。
(20) 第33回全国ゴルフ大会の収支決算内容を説明し，次回のゴルフ大会は平成17年９月８日に開催の予定であることを報告。
(21) 逝去会員の訃報連絡系統を説明。
(22) 会員が罹災に遭遇した場合の本会への報告手続きについて説明。
(23) 会員が障害・疾病により診療業務不能となった場合の緊急歯科医派遣制度について検討していることを報告。
(24) 保険診療の手引きを会員など関連部署に発送したことを報告。
(25) ホームページをリニューアルし見やすくなったことと，野口英世展が終わり，新たに東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ開催の案内を掲載したことを報告。
(26) 支部会員などが自由に書き込める掲示板の名称を会員情報掲示板としたことを報告。
(27) 平成16年度版会員名簿作成のデーターを名簿作成業者から本会のコンピューターに戻しいれたことを報告。
(28) 11月13日開催の本学推薦入試について報告。

各地域選出理事報告

(1) 藤森理事・北海道
11月21日に北海道地域支部連合会卒後研修会を開催することを報告。
(2) 関谷理事・関東
混合診療の体制が明確でないので患者への説明に困惑していることを報告。
(3) 上野理事・東京
保険審査業務に医科はかなりのコンピューター処理を取り組んでいるが，歯科の遅れが目立つことと，12月27日に東京地域支部連合会総会を開催することを報告。
(4) 山田理事・信越
新潟県中越地震の被害状況を報告，詳細は明日の評議員会において新潟県支部長より報告されることを説明。
(5) 喜田理事・東海
浜松市の会員で新潟県中越地震義援金募金を行っていることを報告。
(6) 高田理事・近畿
11月23日に近畿地域支部連合会総会を開催することを報告。
(7) 久保田理事・四国
12月４日に愛媛県支部総会を開催することを報告。また平成17年５月14日四国地域支部連合会総会を開催することを報告。

協 議 事 項

(1) 同窓会会費および共済負担金納入延期願いについて１件承認。
(2) 推薦会員退会願いについて１件承認。
(3) 大学から申し出のあった歯科医師臨床研修制度の説明会について協議の結果，評議員会と総会の間で行うことを決定。
(4) 明日の評議員会会場に新潟県中越地震義援金募金箱の設置を協議の結果，承認。
(5) ホームページ掲示板を自由に書き込めるようにしているので，支部の緊急時などに積極的に使用されたいことを説明。
(6) 情報部委員会で同窓会に連絡された会員の訃報を掲示板に掲載したらどうかとの意見があるが，逝去された会員の家族の意向も考慮する必要があるので次回理事会で検討されたいことを説明。

保　　険

『保険請求のQ＆A』

Q1　最近「か初診」の算定に対して厳しくなったのでしょうか。

A：従来どおりです。風評に惑わされず算定を行って下さい。

Q2　平成16年度保険改定で，「か再診」の算定要件が変わったと聞いておりますが，何が変わったのでしょうか。

A：平成16年4月から「か再診」を算定する場合には，治療の進行状況や次回の治療内容に関して，患者に効果的に説明すると共に，その内容の要点をカルテに記載することになりました。

Q3　P総診開始から1年経過後，P総診を継続する場合，P継診と同一日に算定することはできますか。

A：算定できます。

Q4　P総診算定開始から1年経過後に，歯周外科手術が必要となった場合には算定は可能でしょうか。

A：算定可能です。歯周疾患のメインテナンスを中止し，必要な検査を行った上で歯周外科手術を行うことができます。

Q5　歯周疾患に対する2年目のメインテナンス中に，必要があってメインテナンスを中止した場合，歯周外科手術を行って良い取り扱いになりましたが，歯数に制限はないのでしょうか。

A：歯数に制限はありません。必要があって行った場合は算定できます。

Q6　平成16年4月より，P総診算定の歯数に，ブリッジのポンティック（ダミー）の歯数も含まれることになりましたが，メインテナンスに移行するための歯周組織検査の歯数には，ブリッジのポンティック（ダミー）の歯数は含まれないのでしょうか。

A：含まれません。

Q7　P総診中に義歯の新製が必要になった場合，いつから製作して良いのでしょうか。

A：P以外の診療は，特に時期の制限はありません。レセプトの「摘要」欄に義歯製作が必要になった理由を記載して下さい。

Q8　G継診又はG総診を行った場合，患者さんへ情報提供の文書を渡す必要があるのでしょうか。

A：G継診算定時には必要ですが，G総診算定時には必要ではありません。但しその場合，再診，口腔内検査，指導管理（実地指を含む），機械的歯面清掃等に係る診療の内容をカルテに記載する必要があります。

Q9　訪問診療における地域医療連携体制加算を算定する場合，患者に情報提供する保険医療機関は施設基準の届出書に記載した保険医療機関に限られるのでしょうか。

A：届出書に記載した医療機関に限られません。連携体制が確保されており，休日・夜間等における緊急時に対応し得るよう，できる限り患家に近隣の保険医療機関が望ましいと思われます。

Q10　訪問診療における訪問指導計画・指示書加算の算定はどの様に行うのでしょうか。

A：今回の改定で訪問歯科衛生指導料は，歯科訪問診療を行った歯科医師が作成した指示書に基づいて実地指導を行った場合のみ算定可能となりました。よって，当該加算のない訪問歯科衛生指導料はあり得ません。

Q11　新製義歯を製作し，新製義歯調整指導料（調A）を算定した患者に対し，同一初診内に睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置を製作した。この場合，口腔内装置の調整を行った時には調整料170点を算定できますか。

A：口腔内装置の調整に関しては，1装置につき1回算定する扱いのため，有床義歯の調整とは別途に算定できます。

Q12　睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置を製作するに当たり，既製トレーを使用しアルジネート単純印象を行いましたが，連合印象の225点を算定してよろしいでしょうか。

A：口腔内装置の印象は，印象方法によらず225点の

算定になります。

Q13　家族から「いびき」を指摘され，口腔内装置による治療を希望して来院した患者の装置は，どの様な算定方法になりますか。

A：保険給付外の取り扱いになります。

Q14　口腔の帯状疱疹にて通院中の患者に対し，必要あって療養上の指導を電話にて行った場合には，再診料と共に月２回まで，歯科特定疾患療養指導料の算定ができますか。

A：再診が電話等により行われた場合には，再診料のみで歯科特定疾患療養指導料の算定はできません。

Q15　保険で歯牙移植を行うことは認められるのでしょうか。

A：認められています。但し，保存不可能な歯牙を抜歯してその抜歯窩に，埋伏歯又は智歯を移植した場合に限ります（平成16年４月より根未完成歯でなくても良いことになりました)。ちなみに歯牙移植は1300点，移植される歯牙の抜歯は460点か1000点（下顎智歯は＋100点）となります。

Q16　同一月に，ブリッジ，有床義歯等２装置以上の欠損補綴を行いました。補綴時診断料（補診）は，１装置毎に算定可能でしょうか。

A：算定可能です。平成16年４月より，１装置毎の算定となりました。

Q17　歯冠修復の装着料の算定について教えて下さい。

A：平成16年４月より歯冠修復物の点数には，その装着料が含まれなくなりました。したがって歯冠修復物とは別に，その装着料を算定して下さい。

（例）

（CK）371点＋（装着料）45点
＋（セメント料）22点

Q18　今回（平成16年４月）の改定で鋳造歯冠修復においては，装着料を別に算定することになりましたが，メタルコアの装着についても，装着料を別に算定するのですか。

A：メタルコアについては従来通り装着料を含んでいますので，大臼歯なら200点，小臼歯・前歯なら160点が装着料を含んだ点数です。

Q19　乳歯の銀インレー装着時の装着料は何点でしょうか。

A：鋳造歯冠修復の装着料45点です。ちなみに乳歯冠の装着料は30点になります。

Q20　下顎大臼歯の根分岐部病変に対して根分割掻爬後，近心根・遠心根双方にメタルコアをたて，FCKを装着した場合の算定はどの様になりますか。

A：単独冠の場合はメタルコア・FCK 共に小臼歯２歯分の算定になりますが，補管は１歯分になります。但し，ブリッジの支台となる場合はメタルコア・FCK 共に大臼歯１歯分の算定です。

Q21　上顎義歯新製中，同月に既存の下顎義歯の調整指導を行いました。下顎義歯の「調Ｂ」の算定は可能でしょうか。

A：同月内でも上顎義歯新製後の「調Ａ」算定前に，下顎義歯の「調Ｂ」の算定は可能です。

Q22　新製義歯装着月に，既に旧義歯又は他の義歯において「調Ｂ」を４回算定している場合，「調Ａ」はどの様に算定すれば良いのでしょうか。

A：「調Ａ」「調Ｂ」併せて月に合計４回までの算定となっておりますので，この場合「調Ａ」は翌月に装着後１ヶ月以内で調整指導を行った日に算定して下さい。

Q23　「調ＤⅡ」算定と同時に，80／100点の床裏装を行いました。その６ヶ月後の長調の算定はどの様になりますか。

A：「調ＤⅠ」を算定することになります。

保険請求に対する疑問点・それに対する回答を，今月号より掲載致します。それぞれの地区により若干解釈が異なる点があるかとも思います。ご質問等をお受けいたしますので，保険部委員会宛（同窓会事務局 FAX 03－3264－4859）まで文書でお願い致します。

同窓会保険部　保険部委員会

混合診療解禁についての一つの考え方

昭和30年卒 鳴　神　保　雄

Ⅰ．はじめに

高齢化による医療費の増加は，わが国だけでなく全ての先進国で大きな悩みとなっている。とくに，歴史的に例のない速度で進行しているわが国においては，その悩みが深刻さを増し，医療保険制度が持続可能かどうかが問題となっていることは周知のことである。

ここ数年を振り返っても，毎年のように医療保険制度について「抜本的改革」が叫ばれ，何らかの改革が実行されてきたが，その改革は医療費の増高にのみ目を向け，医療問題をもっぱら医療費問題として捉えてきたことにその因があるといえよう。

そして，政府の抜本的改革の多くは，供給側に対する直接的な規制が主であったために，規制のコストをどれだけ，誰が負担しているかが不明瞭のまま推移し，負担の問題に触れることなく，問題を解決しようとした政府の無為無策にあったといえるであろう。

このような状況の中で，平成13年１月に内閣府に設置された経済財政諮問会議や平成13年４月に内閣府設置法に基づく政令で設置された総合規制改革会議が相次いで答申を行っている。

その答申の主な内容は，株式会社等の医療機関経営への参入や，いわゆる「混合診療」の解禁問題であり，マスコミが大きく取り上げ，テレビ，新聞などで報道されている。

これらの答申について，厚生労働省は，昭和36年に達成された国民皆保険制度を維持していくという考えから反論しているが，あらゆる面で規制改革を主眼とする小泉首相は平成17年７月を目途に，いくつかの分野，例えば国内未承認であっても米国などで承認されている抗がん剤や必ずしも高度でない先端技術（体外衝撃波膵石破砕術，腹腔鏡下悪性腫瘍切除術など）ならびに制限回数を超える医療行為（腫瘍マーカー検査など）について混合診療の実現を指示している。

このような現況の中で，いわゆる「混合診療」の解禁問題が歯科医療にどのような影響を及ぼすかについて，私なりに考察を行ったので，一つの考え方として参考に供したい。

Ⅱ．いわゆる「混合診療」とは

一般的には「保険診療と保険外診療の組み合わせ」が，いわゆる「混合診療」とされているが，ではなぜ，「いわゆる」が付くかというと，健康保険法，療養担当規則などの法令のどこにも，その「定義」や「禁止事項」が明文化されていないからである。

厚生労働省によると「一連の診療行為の中に保険診療と保険外診療が混在する」ことを「混合診療」と呼んでいる。

具体的には，次の３ケースが広義の「混合診療」である。

① 保険点数表に定められた医療サービスについて，保険の枠をオーバーした部分を通常の自己負担分に上乗せして請求するケース。

② 保険診療と一部保険外診療（自由診療）を組み合わせて行い，保険外診療の費用を患者から徴収するケース。

③ 特定療養費のケース，すなわち，特定療養費制度によって，有効性，安全性が認められた高度先進医療や差額ベット，金属床による総義歯の提供などアメニティー部分に当たる選定療養費の基礎部分に特定療養費を給付し，残りの差額を患者負担とする。

しかし，混合診療という言葉について，その論議の過程を見てみると，推進派と慎重派とで使用する言葉の意味内容について実質性を伴った正確な説明や共有される理解が乏しく，その結果として議論が噛み合うことなく平行線をたどっている感がある。

すなわち，「混合診療」という語は，使用するサイドによって多様であることは，経済財政諮問会議や総合規制改革会議の答申に賛成の立場をとる経団連や経済同友会と所得によって受けられる医療に格差が生じ患者負担の増大を招く懸念があるとして反対の姿勢を打ち出している連合，医師会などで解釈が異なることでも明らかであるし，我が国の医療制度において，国民皆保険下，「社会保障として必要十分な医療」は保険診療として確保することが原則であるとして反論している厚生労働省の反論を見ても明らかである。

また，「混合診療」という概念の本質は，保険診療と保険外診療の診療行為が混在するのではなく，保険給付（一部負担金を含む）と保険外の患者負担との混在，すなわち，「費用の混在」を指すものであるといわれているが，明確な定義付けはされていない。

Ⅲ．規制改革とは何か

ここ数年「規制改革」という言葉が独り歩きしているが，まず，「規制」とは何か，という問題を論議する必要があろう。

「規制」の概念には，行政的規制，司法的規制，自主規制があることは周知のことであろう。

これらの規制のうち，規制改革，規制緩和という観点から問題とされるのは，国，地方公共団体などにより特定の政策目的を達成するため国民生活や企業活動に対して行われる公的規制である。

医療について述べると，診療報酬という厚生労働省が定める公定価格であり，保険点数表に示されている種々の規制である。

歯科医師が患者が希望し，最適であると考える医療を提供しようとしても，そこに規制があり，行うことが出来なかった事例は保険診療において数え切れぬほどあるのではないだろうか。

それらの規制を緩和することなく，医療費にのみ目を向けた考え方に立って規制改革の名の下に「混合診療」を解禁することで規制を緩和しようする考え方は，医療担当者というよりは患者である国民の経済的負担増を無視した「規制改革」ではなく，「規制改悪」と言っても過言ではあるまい。

Ⅳ．いわゆる混合診療解禁に対する危惧

今回のいわゆる「混合診療」を解禁することによって，それが国民の医療に対してどのような効果をもたらすのか，いつまでその効果が続くのかなどを考えることなく，一時的な経済効果だけを考えたいわゆる「混合診療」解禁には疑問を感ぜざるを得ない。

なぜならば，個々の医療機関がそれぞれ診療体制を充実することが，国民の望む社会保障ならびに医療保障の充実であり，医療を産業と国が考えるならば，医療産業としての経済効果を生み出すことになるのではないだろうか。

歯科医療において日進月歩する新技術をいかに保険診療の対象として枠付けするか難しい問題である。しかし，歯科診療における高度先進医療，選定医療については，普遍化したものについてその時点で保険に導入するということが，特定療養費制度が設けられた際に定められている。

このことから，歯科においては特定療養費制度の活用，拡大が患者のニーズに応えられる一つの手段と考えられる。

しかし，今回のいわゆる「混合診療」の解禁で一番危惧されることは，多様化する患者のニーズに応え，アメニティーやラグジュアリーに属するものについては，本来の保険給付から除外し，国民医療費の公費負担を削減，すなわち，医療費を抑制しようとする方途になる危険を含んでいるからである。

ということは，今回の経済財政諮問会議ならびに総合規制会議が提唱しているいわゆる「混合診療」を解禁したならば，現在，特定療養費制度の下で行われている高度先進医療，選定医療は保険給付から外され保険給付外となる恐れが十分にあるからである。

そのようになれば，当然，国民はかなりな自己負担が要求されることから，保険給付外の医療支出を削減し，それを補完するために民間保険への加入を余儀なくされることになる。

そのような状況になれば，当然民間保険会社は，営利を目的とした企業であるから，出来るだけ加入者を増やす企業努力を増す反面，加入者への支払についてはチェックを厳しくし，医療機関に対してもモラルハザードを期待するであろう。

したがって，将来的には保険会社が自ら医療機関経営に参画し，医療費の削減，抑制を図ることに繋がる恐れが大である。

紙数の関係で「株式会社等の医療機関経営への参入」については，触れることが出来ないが，経済財政諮問会議や総合規制改革会議の狙いは，医療を産業と考え，短絡的に毎年１兆円ずつ増え続ける30兆円超の医療費に目を向け，人口構造の変化，経済の低迷への解決策を等閑にして医療費を抑制する手段として「株式会社等の医療機関経営への参入」やいわゆる「混合診療」解禁の論議がなされていることに危惧を感ぜざるを得ない。

Ⅴ．おわりに

今回経済財政諮問会議ならびに総合規制会議の答申を受けて，政府は平成17年７月を目途にいわゆる「混合診療」解禁の方向で結論を出したいとする小泉首相の方針に沿って論議が重ねられている。

いわゆる「混合診療」の解禁について，ややもすると昔の差額徴収制度の復活であるかのような間違った考えを抱いているやに仄聞するが，このような考えは全くもってナンセンスと言わざるをえない。

というのは，今回のいわゆる「混合診療」の解禁に対して共通して論議されている内容は，国の財政が逼迫している現状から，公的保険には財政的限界がある。また，公的保険は統一的な公定価格であるため，競争が促進されず質の向上に限界があるから，混合診療を解禁す

ることにより，自由価格によって医療に市場原理に基づく競争原理を導入しようとするものであり，医療費抑制策であることはいうまでもない。

また，今回国が提唱している，いわゆる「混合診療」解禁の根底には，現行の特定療養費制度を廃止しようとするものであり，日本の医療システムの根幹をなす皆保険制度の崩壊につながりかねない危険性をはらんでいる。

日本歯科医師会は，４師会共闘の名のもとに，いわゆる「混合診療」の解禁について「反対」を唱えているが，歯科医療を担い，医科医療を提供する立場から，国民が真に望み，多様化する歯科医療への国民のニーズにどう応えるべきかを国民とともに論議すべきではないだろうか。

今日の医療がキュアーからケアへと変わり，自らを自らが守るという意識の中で，予防という考えに基づいた指導管理などを選定療養として取り入れ，特定療養費制度の拡充を図るべきではないだろうか。このことにより，患者自らが口腔ケアの大切さを意識し，歯科医療の専門家である歯科医師の指導に基づく日々の自己管理により，口腔疾患の罹患率は減少し，医療費の削減効果に役立つであろうし，そのために要した費用は，患者自らの健康に寄与することから，将来的には患者自らの健康維持に還元され，医療を受ける患者自身の理解と納得をえられうるのではないだろうか。

今回提起されたいわゆる「混合診療」解禁について，国民皆保険制度の崩壊を招くという観点から強く反対すべきである。

紙数の関係から「株式会社等の医療機関経営への参入」については触れることが出来なかったが，将来歯科医師の自由開業制や歯科医師の歯科医療に対する自由裁量権まで剥奪されかねない国の考え方に，歯科医療を担う専門職として国民歯科医療を守るという立場から，国民とともに「株式会社等の医療機関経営への参入」，いわゆる「混合診療」の解禁について反対する姿勢を崩してはならぬことを付記し，甚だ雑駁な一つの考え方を披瀝したことをお許しいただき，少しでも皆様の参考に供することを願い，私に与えられた責務を終わりたい。

住所不明者リスト（敬称略）

下記の会員の現住所または連絡先をご存知の方は同窓会事務局までご一報下さい。

（FAX　03－3264－4859　TEL03－5275－1761）

本庄　忠夫（昭２卒）	桜井　武臣（昭３卒）	山崎　敏夫（昭３卒）	内田　道一（昭４卒）
上坂　武嗣（昭４卒）	福田　　猛（昭４卒）	原　　義太（昭５卒）	吉田　昌平（昭５卒）
江維　　仁（昭６卒）	早川　　篤（昭６卒）	伊藤　秀雄（昭７卒）	谷川　正利（昭７卒）
久保　英夫（昭８卒）	西村　数人（昭９卒）	山本　万蔵（昭９卒）	青柳　幸吉（昭10卒）
川上　三郎（昭10卒）	尾本　晴義（昭11卒）	松下　正夫（昭11卒）	湯浅　静雄（昭11卒）
北村　尚信（昭12卒）	深沢　正雄（昭12卒）	周　　少華（昭13卒）	武田　龍一（昭13卒）
長谷川豊夫（昭13卒）	向山　正秋（昭13卒）	小林　弘光（昭14卒）	池山　　融（昭15卒）
磯田　　清（昭15卒）	岡　　恒雄（昭15卒）	原田　和雄（昭15卒）	松川　一雄（昭15卒）
柳　　歩青（昭15卒）	猪股　　一（昭16卒）	今田　幸彦（昭16卒）	高尾　岩雄（昭16卒）
加納　　弘（昭17.9卒）	鎌谷　　真（昭17.9卒）	近藤　　豊（昭17.9卒）	鈴木　義昭（昭17.9卒）

TDC 卒後研修ベーシックセミナー

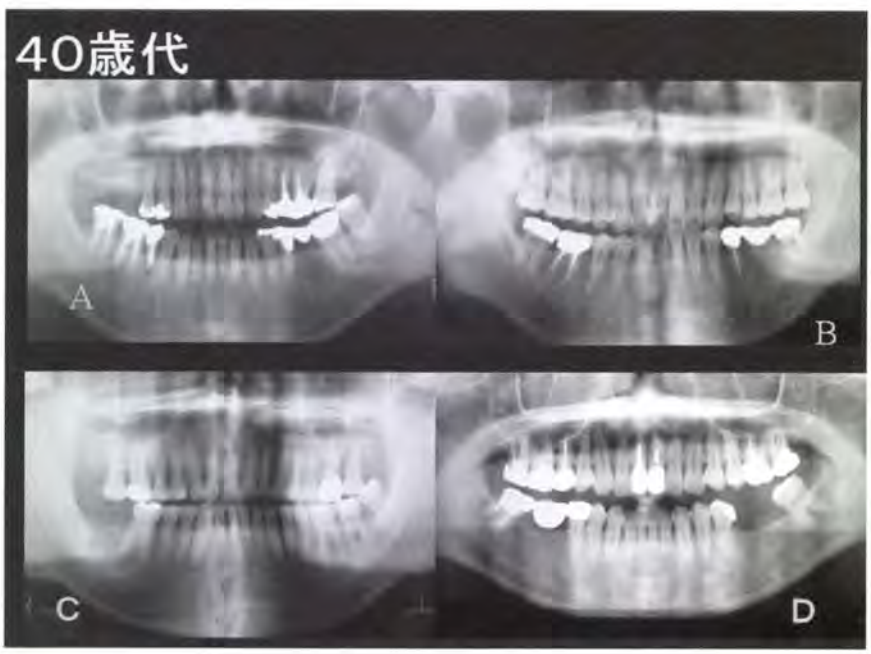
10月17日「歯の喪失リスクを読む」と題して開催されました。

まず，高柳先生の企画説明は，以下の通りです。

歯の喪失は，50代以前まではゆるやかです。その後の急激な喪失をどう受け止め，対処していくか。いかに喪失がおきないうちに対処していくか。まず30，40代の人から兆候をとらえ，いかに対処していくかを考え，将来を考えながら歯科臨床に向かうのが大切であるとのことでした。

今回は，６～７人が一つの班になり，30分程グループディスカッションをして発表。まずは30代２名のパノラマ所見より，カリエスタイプかペリオタイプか，歯科への反応の有無が考察されました。

次は40代４名のパノラマ所見より今後のリスクを考え，リスクの高いものより順番をつけます。（パノラマ参照－是非一考して下さい）



義歯装着の有無，補綴物の有無も参考になります。

午後はまず，高柳先生による「生涯を見据えた歯の喪失の予防について」で子供の虫歯が，歯をよく磨き，砂糖の消費量が減ることにより減っているが，成人以降の虫歯が増えることにより全体のカリエスが増えてるということです。

そして，フッ素配合歯磨材の使用が成人のカリエス予防に重要であると考えられます。

日本でも普及していますが，効果がさほど現れていないのは，有効濃度が若干低いのと，使用量が少ないのが原因ではないかと思われます。使い方としても，カリエスリスクの高い歯牙をはじめに磨く，歯磨材を途中で付け直す等を認知していないのではないかと考えられます。

歯の生存率曲線を考えると，20歯から24歯以下の歯数になると急速に歯を失うことになり，年齢的には50，60代に急速に歯を失います。

歯の喪失が始まると受療率があがるが，大切なのは歯を失う前の定期的なコントロールであると考えられます。

次は野島先生による「欠損歯列の難易度を読む」で全員でパノラマを20秒ずつみて，難易度を点数化して発表します。難しいのを10点として，補綴後のトラブルが早く大きい度合いを考えます。

義歯の回転，沈下，疼痛。顎堤の吸収。義歯の破損。支台歯の荷重の負荷。ようするに咀嚼機能の回復が難しいケースを10点として発表し，理由を述べます。

各々多少のずれはあるものの，すれ違い咬合，遊離端欠損を難症例として採点しました。

次は藤関先生による「欠損歯列からリスクを読む」で，先生の臨床例を参考に，目の前の欠損歯列のパノラマより難易度を評価するポイントを伺いました。

ポイントは，

1．咬合支持：残存歯による顎位の支持－何カ所で噛んでいるか－臼歯部で噛んでいるか
2．受圧要素：支台歯の配置，数－片顎単位でどのように歯牙が残っているか－長い遊離端かどうか
3．加圧要素：対抗関係－欠損部の対顎の歯の状態。

以上の３点です。

山本先生による「ケースプレゼンテーション」のあと，最後のまとめを宮地先生がして下さいました。

リスクを読むまとめとして，リスクの図り方が重要で喫煙者の肺癌リスクは2.2～4倍で心筋梗塞が1.7倍であるが，あわせるとかなりリスクが増えます。この視点が大切で歯周病のリスク因子は喫煙者は3.4倍縁下歯石があると7倍，年齢のリスクが65才から74才で9倍です。歯科にとっては年齢リスクが高く，合わせるとかなりのリスクです。

高齢者の喪失リスクの疫学調査（2年）によると，ポケットが初診時6ミリ以上は喪失リスクが3倍，修復が多い人－9本以上は4倍（忠実に経過観察をしていけばそこまでのリスクはないと考えられる）

根面カリエス，肥満，免疫応答の不備は2倍，加齢リスクは9倍でやはり加齢リスクが高いです。

初診時，現在歯の数を30年に渡って数えてみるとやはり年齢リスクが高く，20，30代はそんなに歯は喪失せず，50代から喪失が始まります。

個人差はあるものの，40代のカリエスタイプからペリオタイプに移行するときからこそ，定期検診が重要であるといえます。20代は10年間に0.62本を失う。

30代ではその2倍。40代では4倍。50代では6倍。60代では9倍。

初診時の年齢で大体のリスクが先生の調査からわかりますし，高齢になるに従い全身の健康状態も悪くなることもふまえて，年齢に応じたリスクをとらえ予測することが重要であるということがよくわかりました。

続いて11月7日に「歯はどこまで救えるか！」が行われた。

黒田先生の説明の後，5班に分かれ一つの症例をパノラマエックス線写真と口腔内写真と概要から保存か抜歯か考えます。

その際自分の意見をグループ内で発言し各々の意見をまとめ，グループの意見として発表します。

3症例について行ったが，一つをここでは紹介します。

36才男性，左下が噛むと痛いというのが主訴で，右下5番にすり鉢状の骨吸収があり，歯根膜腔が拡大し，隣在歯と辺縁隆線が連続しないというケースです。

この右下5番に関して，いろいろな意見が出されましたが，実際の症例では咬合調整，1カ月後抜髄で11年経過とのことでした。

次に，参加者の持参したレントゲンをスクリーンに写し，参加者が順に気になる点をあげていきます。

大切なのは，位置づけ，コントラスト，歯根膜空隙が写っているか，歯槽硬線が写っているかの4点，さらに付け加えれば，歯槽骨の骨梁が読めるかです。

良い写真が撮影できなくては，なんの診断もできないという当たり前のことを再認識しました。

途中2先生の症例発表もあり，あっと言う間の6時間でした。

感　想

2回のベーシックセミナーを取材させて頂き，チュートリアル形式の良さがよく理解できました。

自分自身で，パノラマ写真を読み取り考え発表，討論，意見のまとめまでを決められた時間内に行うという形式は，非常に勉強になります。

若い先生の出席が多いようですが，臨床経験をつんだ先生にこそ出席して頂き，もう一度自分の考えをまとめるというのは，大変有効だと思います。

同じグループにいろんな年代の先生がいるというのも大変刺激になります。

学術委員の先生方は，資料集め，資料作成，予演会他準備が非常に大変で今後沢山の受講生が参加すると，学術委員の先生の負担が大きくなると思いますが，是非一度参加してみて欲しいです。

また，歯界展望別冊より「長くかかわる歯科医療の実践」が昨年10月に出版されました。

これを読むことにより，今回のベーシックセミナー2回の理解がより深まったことを付記しておきます。

（取材・広報部　尾﨑圭子）

母校だより

カリキュラム研修ワークショップ開催

平成18年度からは新たな歯科臨床研修医制度が導入されます。この制度では，指導歯科医の資格要件として，カリキュラム立案能力ならびに臨床研修指導技法を習得することを目的とする講習会を受講していることを求めています。母校では平成12年からこの指針に則った「カリキュラム研修ワークショップ」を定期的に開催しております。

今回母校と同窓会の共催で開催された「第14回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ」に30名の同窓が参加されました。

＊母校と同窓会の共催カリキュラム研修ワークショップ

昭和56年卒　藤関　雅嗣

1月15，16日の両日，第14回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップが同窓会と共催で同窓会会員40名の参加をえて実施されました。私は3年前に受講し，カリキュラムの作成手順は理解したつもりでおりましたが，今回同窓会学術部からオブザーバーという型で参加させていただき，タスクフォースの先生に御指導を受けながら，研修全体を見ることができましたのでご報告いたします。この研修には，2つの大きな柱がありました。1つは，ワークショップという手法を通して問題解決や教育の効果を知ることができる，もう1つは実際にカリキュラム・プランニングができるようになるということです。

平成18年4月以降，歯科医師法第16条の2，第1項（診療に従事しようとする歯科医師は，1年以上臨床研修を受けなければならない）により，卒直後の臨床研修が必修化されます。現在大学での教育は大きく変わってきています。講義主体の教育の欠点である「教授錯覚」つまり何かを教育する時にその事項を一方通行で話して受け手に教えたつもりでも，実は受け手には100%伝わってはいないという現象を改善するために，ワークショップが導入されています。ワークショップとは参加者が意見を出し合い，相互に協力して討議を重ねることで問題の解決法を身につけることができ，個人レベルで問題解決を行うのとは比較にならない有効な成果を得ることができる課題解決法であると同時に効果的な学習方法のひとつです。

今回のワークショップでは8人ずつ5グループに分かれ，まずそれぞれのグループでデイスカッションしその結果を全体デイスカッションで修正していくという手法で，問題解決を受講者自らがおこなっていきました。この方法が実に効果的であるということを全員が体感できたと感じました。

卒業生は今回私達が研修し体験したワークショップの手法を用いた教育を受けています。そして彼らは臨床研修医として開業医の管理型や協力型施設にやってきます。この施設では，臨床研修の到達目標が実現できる研修プログラム（具体的には研修目標，研修計画，指導体制などの事項が研修医にわかりやすく定められいる）を公表することが必要になってきます。

このワークショップでは実際に学習目標が設定されたカリキュラムを作っていくこととはどういう作業かを受講者は体験します。効果的に知識，態度，技能の3つの領域を研修できるカリキュラムを作成することが重要で，まず具体的目標を決めて，それをいかにして習得するのかといった方略を考え，さらにその効果を評価し，修正するフィードバックを行っていきます。臨床研修医に対していかにして魅力的なカリキュラムを作成していくかが必要であると感じました。またこの研修は臨床研修医のためのみならず医院のスタッフ教育にも大変参考になる企画だと思いました。現在臨床研修医の受け入れ施設が不足しております。同窓の先生方の御協力が必要となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

＊「カリキュラム研修ワークショップ」による行動変容

昭和54年卒　三友　和夫

大学生の姪によれば「ワークショップぐらい知らなきゃ時代遅れになっちゃうよ。」ということで身近な東京歯科大学のワークショップを受講してみた。

カリキュラム研修では，８人の小グループに別れ，コンセンサスをとりながら課題に取り組むことでカリキュラムの作成について学ぶ方式であった。自分の考え方を他の人に理解してもらったり逆に他人の意見を取り入れたり，時によっては混乱して今何をしているのかさえも分からなくなる時さえあった。そんな時には「タスクフォース」という支援する頼れるスタッフがいた。カリキュラムの作り方だけではなく，指導医としての問題解決能力やコンセンサス能力を高めるためのワークショップでもあるようだった。

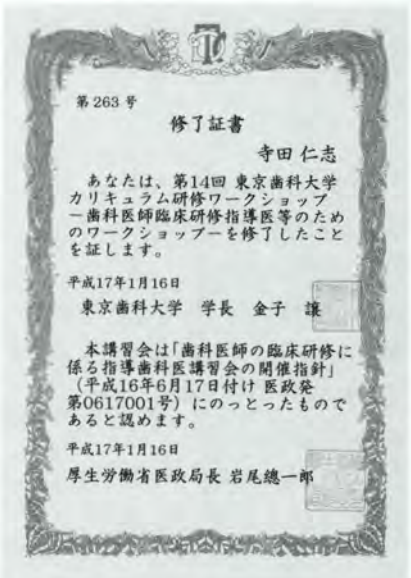
講演会終了後稲毛駅近くで久しぶりに，一緒に参加した友人Ａと旧交を温めた。東歯大生の息子を紹介するということで，携帯を掛けたところ息子さんはもう出て来たくないような様子だった。「タクシー代払うから早く出て来い」と一喝されていた。そこでＡに「そんな言い方は父権主義の権化ではないか？」さらに「息子さんに説明してコンセンサスを得るべきじゃないか」と講演会で教わったことを言って畳み掛けた。行動変容は難しいようだ。しかしその後ポツリとＡの意外な一言があった。「確かに俺はパターナリズムの権化だな」自己認識の変容は確かに起こしたのかもしれない。ワークショップとＡ君の今後に期待したい。

＊カリキュラム研修ワークショップに参加して

昭和58年卒　荻原　俊美

いつ雪になってもおかしくない冷たい雨の降る１月15日，第14回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップに参加した。今回は翌16日までの一泊合宿研修である。参加者は40名で８名ずつ５つのグループに分かれ，互いに協力し，討議を重ね問題解決法を身につける。今回の主題は「カリキュラムプランニング－臨床研修開発－」である。緊張して会場に着き，参加者を見ると３／４は知った顔で不安が少し薄らいだ。この研修は参加者もスタッフも「さん」で呼ぶ掟があるそうだ。開校式の後，病院長の石井さんより参加者全員が発言し作っていく研修である旨の説明があり早速「望ましい学習活動」「研修医の問題点の抽出」とセッションが進んでいく。みんなで意見を出し合い，グループの意見として，まとめ，発表し，批判され，発表を修正するという作業がめまぐるしく続く。頭の中がパンパンになったころ１日目のカリキュラムは修了した。しかし，夕食後宿泊施設に移動し，そこで本日不備であった部分の修正を午後11時の消灯まで行ったグループもあった。翌日は８時30分より臨床研修医の法制化についてと医療安全管理のレクチャーの後大学に戻り，昨日からの引き続きのセッションの作業が続く。やはりめまぐるしいのだが，最後のグループ発表を行うころには参加者みんながなんとなく今回の主題に対する対処法が見えてきたようで作業もスムーズに進んだような気がした。最後にこの研修の開始前と終了後に行った小テストの結果が石井さんより発表された。結果はかなりの研修成果が見られたとのお言葉を頂き，皆一様に疲労しきった脳みそをいたわるような表情になった。長らく研修の場を離れていた参加者にとって，このシステマチックな教育は驚きである。

最後に，われわれ研修者のために休日を返上してお世話いただいた大学の先生方，事務職員の方々に感謝いたします。



第263号

修了証書

寺田 仁志

あなたは、第14回 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ－歯科医師臨床研修指導医等のためのワークショップ－を修了したことを証します。

平成17年1月16日

東京歯科大学　学長　金子　譲

本講習会は「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」（平成16年6月17日付け 医政発第0617001号）にのっとったものであると認めます。

平成17年1月16日

厚生労働省医政局長 岩尾總一郎

千葉病院絵画寄贈のお礼とお願い　―その5―

東京歯科大学大学院研究科長
東京歯科大学白亜会（美術部）部長　奥　田　克　爾

病院には，ところどころに風景画や明るい花の絵は患者のこころをほっとさせるものと思っています。東京歯科大学には，白亜会という美術クラブがあり，そのクラブの先輩には，素晴らしい絵を描かれる先生がたくさんおられます。また，歯科医の絵画サークルに入会されている先生，各地の絵画会に参加されて見事な絵を描いておられる先生がおられます。

同窓会の先生で，千葉病院患者に，安らぎの気持ちにさせる，よりアメニティーになるような絵画を寄贈していただきたくお願いしてきています。すでに，同窓会報で4回にわたり，寄贈戴いた先生に感謝を含めて私の印象などをふくめて報告させて戴きました。いまは，寄贈戴いた絵画16点が千葉病院に掲げられています。

今回は，間部善治「ひまわり」の版画を寄贈戴きました。昭和53年度卒業（八実会）の野田　修先生が長年診療室に掲げておられたものです。間部善治画伯は，富山県の朝日町で教鞭をとっておられた版画家でもあります。間部画伯の次男間部克善さんは，現在本学の会計課長です。「ひまわり」は，白黒の写真ではそのよさが分かりにくいかと思いますが，明るい太陽のもとで輝いた秀作です。

いままで寄贈戴いた絵画，本学に掲げてある野口英世博士の絵などもあります。さらに，同窓である斉藤喜久夫先生（パリで画家としても活躍）の修復された絵もあります。本物をじっくり観賞されてもよいかと思っています。寄贈戴いた，絵画のローテーションなども考えています。また，会議室などでも安らぎのある絵画が掛かっていれば良いでしょう。同窓の先生から，これからも寄贈があればとお知らせ頂けないでしょうか。

●博士（歯学）学位記授与

第524回(平15. 12. 10)授与

第501回(平13. 11. 7)合格
浅　野　裕　之（保存Ⅱ）第1506号・甲843号
第506回(平14. 4. 10)合格
宇佐美　敦　司（解剖Ⅰ）第1521号・甲854号
第508回(平14. 6. 12)合格
岡　村　泰　斗(オーラルメディシン)第1526号・甲857号
第515回(平15. 2. 19)合格
土　居　知　良（解剖Ⅰ）第1548号・甲873号
福　井　健　之（矯　正）第1549号・甲874号
第519回(平15. 6. 11)合格
鷲　頭　正　大（微生物）第1563号・乙682号
第520回(平15. 7. 9)合格
小　杉　宗　弘（微生物）第1570号・乙685号

第525回(平16. 1. 14)授与

第505回(平14. 3. 13)合格
幾　本　英　之（口外Ⅱ）第1520号・甲853号
第524回(平15. 12. 10)合格
阿　部　光　弘（生　理）第1579号・乙687号
阿　部　美奈子（生　理）第1580号・乙688号

第526回(平16. 2. 18)授与

第505回(平14. 3. 13)合格
横　尾　恵　子（口外Ⅰ）第1519号・甲852号

第527回(平16. 3. 17)授与

第509回(平14. 7. 10)合格
劉　　佳（理　工）第1530号・甲858号
第514回(平15. 1. 15)合格
宇佐美　晶　信（解剖Ⅰ）第1539号・甲865号
大　井　　崇（解剖Ⅰ）第1540号・甲866号
清　水　　泰（解剖Ⅰ）第1541号・乙675号
第522回(平15. 10. 8)合格
篠　原　　崇（保存Ⅲ）第1576号・甲890号

第526回(平16. 2.18)合格
田 中 千 早 (口外Ⅰ) 第1586号・甲898号
第528回(平16. 4.7)授与
第513回(平14.12.11)合格
小 関 真理子 (衛 生) 第1537号・甲863号
第519回(平15. 6.11)合格
藤 関 雅 嗣 (病 理) 第1565号・乙684号
第530回(平16. 6.9)授与
第516回(平15. 3.19)合格
臼 田 準 (病 理) 第1557号・乙680号
第519回(平15. 6.11)合格
椎 貝 達 夫 (病 理) 第1564号・乙683号
第527回(平16. 3.17)合格
山 中 あゆみ (微生物) 第1595号・乙691号
第531回(平16. 7. 7)授与
第526回(平16. 2.18)合格
保 科 早 苗 (スポーツ歯学) 第1584号・甲896号
菊 池 建 司 (補綴Ⅱ) 第1585号・甲897号
第532回(平16. 9. 8)授与
第489回(平12.10.11)合格
友 利 隆 俊 (衛 生) 第1458号・乙648号
第507回(平14. 5. 8)合格
塩 崎 由美子 (歯 麻) 第1523号・甲856号
第510回(平14. 9.11)合格
宇都野 創 (法 歯) 第1535号・甲862号
第521回(平15. 9.10)合格
加 納 美穂子 (歯 麻) 第1573号・甲887号
第524回(平15.12.10)合格
沼 澤 成 文 (補綴Ⅱ) 第1577号・甲891号
第527回(平16. 3.17)合格
宮 部 英 明 (微生物) 第1598号・乙694号
第531回(平16. 7. 7)合格
天 野 恭 彦 (保存Ⅱ) 第1608号・乙697号
第533回(平16.10.13)授与
第496回(平13. 5. 9)合格
鈴 木 基 (矯 正) 第1489号・甲832号
第504回(平14. 2.20)合格
神 山 勲 (口外Ⅰ) 第1517号・甲850号
第515回(平15. 2.19)合格
大 神 浩一郎 (補綴Ⅰ) 第1544号・甲869号
第529回(平16. 5.12)合格
杉 本 真 慈 (保存Ⅱ) 第1602号・甲908号
第534回(平16.11.10)授与
第489回(平12.10.11)合格
渡 邊 裕(オーラルメディシン)第1536号・乙674号

●人 事

○教育職員関係

退 職

教 授	田邊 清男	(市病産婦人科)	16.10.31
助 手	本橋 佳子	(口 外 Ⅱ)	〃

辞 任

非常勤講師	平井 泰行	(補 綴 Ⅲ)	16.11.30
病院助手	本田 理恵	(市病眼科)	16.10.31
〃	小川 透	(スポーツ歯学)	16.11.30

復 職

助 手	杉戸 博記	(保 存 Ⅱ)	16.10. 1

採 用

再任用

助 手	根岸 史郎	(歯科矯正)	16.10. 1 ～19. 9.30

新規任用

講 師	東 俊文	(口腔科学研究センター)	16.11. 1 ～19.10.31
助 手	吉村 元	(口 外 Ⅱ)	16.10. 1 ～19. 9.30
〃	川島 素子	(市病眼科)	〃
〃	本田 理恵	(水病眼科)	16.11. 1 ～19.10.31

任 用

客員教授	山中すみへ	(衛 生)	16.10. 1 ～17. 3.31
研究助手	小林 義昌	(〃)	16.10. 1
病院助手	高梨 聖敏	(補 綴 Ⅲ)	〃

昇 任

講師から助教授へ	茂木 悦子	(歯科矯正)	16.10. 1 ～21. 9.30
〃	松坂 賢一	(臨床検査学)	〃
助手から講師へ	石崎 憲	(補 綴 Ⅰ)	16.10. 1 ～19. 9.30

任 命

千葉病院口腔インプラント科科長を命ずる

講 師	矢島 安朝		16.10. 1 ～17. 5.31

市川総合病院産婦人科部長の職を解く

教 授	田邊 清男		16.10.31

市川総合病院産婦人科部長代行を命ずる

講 師	髙松 潔		16.11. 1 ～17. 5.31

嘱 託 (新規)

嘱託教員	山中すみへ	(衛 生)	16.10. 1 ～17. 3.31

大学広報より抜粋掲載

東京地域支部連合会

第34回総会

平成16年11月27日(土)午後4時より水道橋血脇記念ホールにて開催されました。

上野眞人専務理事の司会にて，武石醇作副会長の開会の辞に続き，大友　好会長より①会務事業に対する御礼と12月2日に行われるフォーラム・ディスカッションについて。②国保社保審査委員の任期満了に対する御礼と新審査委員の推薦方について。③来年行われる地区会長選と都歯代議員には，出来るだけ多くの同窓の先生方を選出していただきたいとの要望。④日本歯科医師会関係の現況報告等の挨拶があった。

続いて，ご来賓の先生方からの挨拶は，金子　譲学長より①大学の近況と推薦入学並びに学士入学等について。②18年より始まる卒後研修制度と医療安全について。

天野　恵同窓会長からは①20日に行われた評議員会報告と本部事業に対する御礼。②日本歯科医師会には，今後も支援していくとのこと。

貝塚雅信東京都歯科医師会会長から①混合診療導入に反対する国民医療を守る東京都大会。②執行部の来年3月任期満了に対する御礼。

柿澤　卓水道橋病院長からは，①連合会々員からの患者紹介に対する御礼。②臨床研修医制度の法制化と病院の対応について。

佐藤春海保険指導医療官からは，①社会保険庁の疑惑問題の説明。②平成16年度途中より上條英之先生が，厚生労働省の歯科管理官になったとの報告と挨拶があった。

次に議長団の選出となり，議長に小貫　克（本所支部），副議長には小山捷三（武蔵野支部）の両会員が選出された。議事録署名人には，岡崎正史（港区芝支部）と武井和彦（本所支部）の両会員が指名された。その後は，議事日程に従い，上野専務理事の会務報告，小林俊春会計担当理事の会計現況報告に続き，議事は1号議案より6号議案まで，北村晴彦監事の監事報告を含め，特に異論も無く全議案が可決確定された。最後に鹿島隆雄副会長の閉会の辞を以って午後5時20分に終了した。

その後は場所を変えて水道橋グリーンホテルにて懇親会が催された。冨山雅史総務担当理事の司会に始まり，薬師寺　仁副学長によるご挨拶と乾杯の発声により懇親会が進行した。和やかな中に幾つもの輪があちこちに出来上がり，最後に池田恒彦監事の閉会の辞にて8時前に，散会した。

（丹野　茂 記）

近畿地域支部連合会

平成16年11月23日(祝)兵庫県支部の担当で，第57回近畿連合同窓会が神戸ベイシェラトン，ホテル&タワーズにて開催されました。当日は爽やかな秋晴れの中，大学法人より井上理事長，同窓会本部より天野会長，安藤専務理事，高田理事，本学からは金子学長，兵庫県歯科医師会より橋本会長，豊川専務理事をお迎えし，総勢80名の同窓が集まりました。総会は兵庫県支部，西村幹事長の司会で始まり，校歌斉唱，物故者の黙祷に続いて，兵庫県吉田支部長の挨拶があり，続いて各ご来賓の先生方より同窓会活動や国家試験，学内の様子等についてお話しいただきました。

総会終了後，新潟大学口腔外科学講座，齊藤　力教授より「口腔内装具による閉塞型睡眠呼吸障害の治療」による講演が行われ，内容はテーマのみならず，先頃の新潟中越地方地震について，また国立と私立大学の違いについて，など興味深いお話もしていただきました。写真撮影についで行われた懇親会も和やかななか行われ，皆別れを惜しむように盛会に終了しました。

尚，次回開催は2005年11月23日，滋賀県の担当で行われる予定です。

(川越弘就 記)

神奈川県支部連合同窓会

平成16年度 定時評議員会・総会開催

～関会長を再選～

前日の夜来から台風なみに発達した低気圧が過ぎ去ったかと思えば，12月の観測史上初の25度という夏日を記録した12月５日(日)午後２時30分から，横浜中華街・ローズホテルにおいて，定時評議員会・総会・懇親会が開催された。今回は，会長選出，会費の値上げ，役員改選時期の変更という大きな議案があり，一期二年の任期満了を迎えた関執行部にとり一つの節目となるものであった。

評議員会では，森田稔彦評議員会議長により議事が進行し，各種報告が行われ，山田　貢会長指名委員会委員長より，関　泰忠現会長を再度会長に指名する旨の報告もなされ，すべて承認された。続いて各種議案が審議され，執行部より出された会費値上げに対しては，「会費免除会員と新入会員とのバランスを考えると会費の値上げをせざるをえない状況ではあるが，会務の執行に当たっては経費の削減に鋭意努力してほしい」との発言もあった。会費値上げならびに役員改選時期の変更も含めてすべての議案は承認された。

引き続き，本部同窓会学術で活躍され，今回，日歯の会計担当常務理事の役職に就かれた矢崎秀昭先生をお迎えし，「高齢化社会における総義歯の臨床の問題点と難症例への取り組み」と題して学術講演会が行われた。具体的な臨床例を通して咬座印象法や複製義歯の作成法などが解説され，会員にとりきわめて有意義であった。

総会は，本部同窓会より天野　恵会長の代理の大友　好副会長ならびに金子　譲学長をお招きし行われた。冒頭，関会長は，本会への会員の理解と協力に感謝し，金子学長へ大学一日体験入学時の大学挙げての協力と歓迎に謝意を述べた。引き続き来賓の大友副会長と金子学長からご挨拶を頂戴した。大友副会長は，先の本部評議員会での天野会長の日歯の一連の問題も含めた当日の発言を紹介された。また金子学長は，変わり行く大学の現状と将来を語られた。その後，慣例により，評議員会副議長の佐久間博一会員を議長に議事が進められ，会長指名委員会報告・評議員会報告を含むすべての報告がなされ承認され，会費値上げ(現行七千円を一万円)も含めて各種議案も順調に可決承認され，会長には満場一致で関　泰忠現会長が再選された。また平成17年度の本会監事には現監事の山下正雄会員と中村昭仁会員が推薦され再選された。

懇親会は，大森一昌県歯会長をはじめとした多数のご招待者をお迎えし，山本照一会員の乾杯の音頭で開宴した。金子学長・薬師寺副学長の就任のお祝いも行われた（薬師寺副学長は他の公務と重なり欠席)。和やかなうちに宴は進み，敬老祝賀会員表彰・新入会員紹介も行われ，最後は恒例の榊原悠紀田郎会員の音頭で校歌を斉唱した。

（鈴木信治 記）

長野県連合会

平成16年11月13日(土)諏訪市のラコ華乃井ホテルにて，総会，記念講演，懇親会が開催されました。同窓会からは関　泰忠常任理事，大学からは，講演会の講師でもある補綴学第一講座教授の櫻井　薫先生をお迎えしました。

総会は，池田守人幹事の司会のもと，連合会会長の笠原克彦先生の歓迎の挨拶で始まり，その中で先日起きた新潟県中越地震の被災地へ見舞金を送ったとの報告がなされました。関常任理事より同窓会の活動報告，学術の面からはインプラントの普及に努めていきたい等のお話がありました。

続いて櫻井先生から，昨年度の国家試験の状態，研修医制度のこれからの問題点などの説明がありました。厳しい現実に直面させられました。最後に日歯理事の村居正雄先生から最近の状況についてお話をしていただき，無事総会を終了いたしました。続いて櫻井先生の記念講演が開かれました。

無歯顎における形態的，機能的，心理的要因についてわかりやすく講義していただきました。形態的に私たちが顎堤だと思っていても，筋肉の付着部であったり，安定した顎堤のようにみえても触診してみると骨の裏打ちがなく不安定であったりなど，特に70才から形態異常が起きやすいようです。また機能的要因として，習慣性の顎位と中心位がちがう場合は習慣性の咬合を与えること。さらに外向性，内向性プロフィールで患者さんのパーソナリティーを審査すれば難易度も予測できるなど興味深い話を聞けてとても良かったと思います。

写真撮影のあとの懇親会では，ここ諏訪地方の７年に１度の諏訪大社の御柱祭りの年ということもあり，御柱祭りには欠かせない「木遣り」のコンクールで金賞に輝いた地元の矢崎弥枝さんの「木遣り」の披露とともに宴会も盛り上がり，昔の思い出とともに楽しいひとときを過ごすことができました。

次の日は，諏訪湖のわかさぎ釣りを体験してもらい，わかさぎの天ぷらを食べてお開きとなりました。

櫻井先生には最後までお付き合いいただきまして本当にありがとうございました。

（百瀬芳子 記）

茨　城　県　支　部

平成16年12月11日(土)，土浦市のホテルロイヤルレイク土浦に於いて東京歯科大学同窓会茨城県支部総会が開催されました。県内同窓会員48名の出席があり，年末大変多忙の中，東京歯科大学同窓会会長天野　恵先生，大学から東京歯科大学学長金子　譲先生，また茨城県支部の名誉会員でもある中久喜　喬先生の3名の先生方のご出席を賜り盛大に開催されました。なお，同窓会会長と学長先生の同時の県支部の出席は極めて異例のことということで会員一同名誉なことと思っています。

副支部長大金正幸先生の開会の辞，物故会員の川上三郎先生，山口省吾先生及び小鹿栄一先生への弔意の黙祷の後，茨城県支部長上野　光先生のご挨拶に続き，天野　恵先生からは本部評議員会と本年度の決算の報告と平成16年の同窓会にとっての不幸な出来事と関係の方について理事会で検討をしている旨のお話がありました。金子　譲学長からは，大学の入試状況および国試への対応及び大学の教育・研究体制をセンター方式で独自のものを目指す旨報告がありました。その後瑞宝中綬賞の栄誉に浴された中久喜　喬先生の顕彰式が執り行われました。また中川　健先生，平田輝行先生2名の新入会員の紹介がありました。

総会の議事に入り議長の中川　暁先生のもとに平成15年度会計決算の承認，平成17年度の事業計画及び予算が承認され，今年度任期満了に伴っての支部長の選出に入り，現支部長の上野　光先生の再選となり，須田　晃副支部長の閉会の辞で総会を無事終了しました。

続いて金子　譲学長から「高齢者，有病者の安全な歯科治療のための注意」の題目で1時間30分にわたり講演をいただきました。写真撮影の後，懇親会にうつり来賓の先生を囲んで和やかなうちに進み，最後に校歌斉唱をして有意義な一日に幕を閉じることができました。

(山添雅夫 記)

栃　木　県　支　部

定時総会

平成16年12月５日(日)宇都宮市ホテルフェアシティにおいて標記総会が開催された。鈴木民夫常任幹事の司会のもと，牟田紀一副支部長が開会の言葉を述べると，今年逝去された大澤三郎先生（平成16年３月８日逝去），岡本全宏先生（同年４月４日逝去），小椋教順先生（同年５月１日逝去）を偲んで，全員が黙祷を捧げた。

齋藤　哲支部長の支部長挨拶に続いて，来賓の先生方からご祝辞を頂戴した。

井上純一郎栃歯副会長は祝辞のなかで『日歯事件』に触れ，国民の信頼に応える歯科医師会をつくるにはどうすれば良いのか，一人一人が真剣に考えていかなければならない，と述べた。黒須　誠同窓会常任理事は，同窓会本部の活動報告とともに，平成18年度に始まる歯科医師臨床研修制度に触れ，会員に対して研修への協力を依頼した。大学学監の井出吉信教授からは，今年度の入試結果や，年々厳しくなる歯科医師国家試験対策など，大学教育の実際を詳しくお話しいただいた。

水野銀三先生を議長に選出して議事に入り，新入会員として齋藤哲一先生，栗原英尚先生のお二人が紹介された。また，議案の採択に続いて，関谷和夫副支部長が同窓会本部理事に就任したことが報告された。

顕彰式では次の先生方の功績を讃え，顕彰状と記念品が贈呈された。

旭　日　双　光　章　湯澤哲郎先生
厚生労働大臣表彰　武田　清先生
正六位旭日双光章　大澤三郎先生
従六位旭日双光章　岡本全宏先生

田中　徹副支部長の閉会の言葉を以て総会は終了し，記念講演に移った。

今回は『国立栃木病院』歯科口腔外科医長の内山公男先生を講師としてお迎えし，『外来手術の適応と限界』との演題でご講演いただいた。豊富な臨床スライドを用いて，鑑別診断のポイントや手術のテクニック，臨床に役立つヒント等をご教授いただき，大変有意義な講演であった。

懇親会は関谷副支部長，黒須常任理事，井出教授の挨拶と，岡田一郎先生の音頭による乾杯で幕を開けた。同窓生一同打ち揃って楽しいひとときを過ごし，最後は校歌の斉唱と大久保雅順先生による一本締めにて，盛会のうちにお開きとなった。

（井上清志 記）

横　浜　南　部　支　部

平成16年度総会・懇親会開催

平成16年12月11日(土)午後６時30分から，横浜市南区蒔田の割烹旅館「松島」において横浜南部支部の平成16年度の総会ならびに懇親会が開催された。来賓には神奈川県支部連合同窓会副会長の加藤木　健先生をお迎えした。

総会では，会務報告を兼ねて玉井達人支部長から挨拶があり，平成16年３月３日に逝去された西崎浅次郎会員に黙祷がささげられた。引き続き来賓の加藤木先生からご挨拶を頂戴した。その後，各種報告が担当理事よりなされ承認された。更に今年度は役員改選期に当たり，支部長には玉井支部長が満場一致で再選された。なお任期は，県連合同窓会会長の任期に合わせることとなった。その後，傘寿を向かえられた酒井惣一郎会員と喜寿を迎えられた森朗会員に玉井支部長から記念品が送られた。

酒井惣一郎会員の乾杯の発声で懇

親会に移り，途中，本会恒例のミニ講演会（ただし趣味の話限定）が行われた。今回は，浜野文夫会員が「究極の街道歩き　熊野古道を歩く」というテーマで，ご子息の弘規会員とこの秋に歩かれた熊野古道・その歴史と街道沿いの食についてお話された。「浜文　味の旅」の著者で食通として知られる浜野会員ならではの話も酒の肴に，宴は進み，老いも若きも？わけ隔てなく楽しく語らい，同窓会の原点を感じた会であった。

（鈴木信治 記）

横浜西部支部

一泊総会・懇親会

平成16年12月１日(水)，泉区の相庭常人君と本間雅之君が幹事となり，熱海「古屋」において，総会が開催された。今回は会員19名の参加があった。

午後４時30分より，学術講演会が行われた。今回は，本会員の鈴木祐司先生による「患者さんとの長いかかわりで得られたもの」との演題にて，講演が行われた。鈴木先生ご自身の，長期にかけて，かかわっておられる患者さんの症例の中の一部を，スライドを交えて解りやすく紹介していただいた。いかに患者さんに，ブラッシングの大切さを納得させ意欲を持たせるか。歯科衛生士の役割の大切さ等，改めて実感させられ，為になる内容であった。

講演会終了後，総会が開かれた。島田英明支部長の開催の挨拶が行われ，新入会員の紹介，県同窓会の評議員会，定時総会の報告がなされた。続いて杉山紀子県同窓会副会長より，県同窓会の報告がなされた。続いて萩原　功君より会計報告があり，続いて佐藤信之副支部長より閉会の挨拶がなされた。

総会終了後，場所を宴会場へ移し，島田英明支部長の挨拶の後，平久由佳君の乾杯の発声で宴に入った。皆，日頃のストレスも忘れ，お酒が進み，会話も弾み，終始和やかな雰囲気であった。宴会の途中，次期幹事地区は旭区に決まり，挨拶がなされた後，楽しい一時を過ごした。その後，高階皓三君の閉会の辞をもって終了となった。

（中島清司 記）

神奈川相北支部

平成16年度総会，懇親会

平成16年11月13日(土)，相模原市のホテルラポール千寿閣において総会が開催されました。渋谷利雄支部長の挨拶に始まり，神奈川県支部連合同窓会の杉原　惇副会長より連合同窓会の事業や総会への案内等がなされました。続いて総会に移り，議長に山田勝朗君が選出され，会計報告が小島正裕君よりあった後，支部長改選の件が審議されました。和田但磨君より選考委員会の報告がなされ，次期支部長として村山正之君が選出されました。その後，懇親会に移り，最初に連合同窓会の中村昭仁監事の挨拶の後，今まで長年にわたり支部長として貢献された渋谷利雄君に，当支部の御大・関戸利夫君から感謝の言葉と記念品が授与されました。懇親会ではおいしい料理とお笑いマジックショウでみんな楽しい時を過ごし，最後に記念写真を撮って散会しました。

(新倉良一 記)

静岡県支部

第64回定時総会

平成16年11月28日(日)ホテルアソシア静岡ターミナルに於いて第64回定時総会が開催されました。来賓として，同窓会本部より常任監事高原映忠先生，大学より法歯学講座助教授花岡洋一先生，静岡県内より地区理事喜田正昭先生，静岡県歯科医師会副会長土屋善博先生，日本歯科医師会代議員太田昭二先生をお招きしました。

総会は，桐原副支部長の開会の辞に始まり，大津支部長の挨拶，物故会員に対する黙祷と続き，来賓より高原映忠先生，花岡洋一先生に挨拶をいただきました。その後，浅井治先生が議長に選出され，議事に移り議案，協議事項とスムーズに進行し浅野副支部長の閉会の辞にて終了しました。

その後「歯科領域における医事紛争の最新動向―インプラントと訪問診療―」と題する花岡洋一先生による講演がありました。三つのキーワード，医療過誤による法律上の責任はない，結果の良否が全てである，インプラントはまだ夢の人工歯根である，をもとに医療過誤と医療事故さらに医事紛争はイコールでないことや，インフォームドコンセントは患者の為だけに作られた言葉であることなど，私たち法律の素人にとって大変興味深いお話を伺えました。唯，今後医療訴訟が訪問診療の分野にも及んでくるであろうという事でいろいろ考えさせられました。

懇親会は，会場を移し林副支部長の開会の辞のあと，大津支部長，太田昭二先生の挨拶に続き，本日，最年長の坂本豊美先生の乾杯の発声により始まりました。和気藹々とした雰囲気の内に閉会の時間となり校歌斉唱，桐原副支部長の閉会の辞により幕を閉じました。

(米山典秀 記)

世田谷支部

東京地域支部連合会世水会

世田谷支部は，昭和９年に世田谷在住の10名ほどの同窓の先生方が，大学より故血脇守之介校長・故大井清先生をお招きして集い，席上血脇校長より『世水会』と命名を受けて発足したと伺っております。今年度はそれから丁度節目の70年目を迎え，平成15年度の定時総会での決議を受けた世水会創立70周年記念事業の一環として，秋晴れの天候にも恵まれた平成16年11月13日(土)渋谷のセルリアンタワー東急ホテルにて「世水会創立70周年を祝う会」を開催いたしました。大学，同窓会，さらに所属歯科医師会である世田谷区歯科医師会より21名のご来賓の先生方のご臨席をいただき，会員も50名と全体の三分の二にも当たる出席のなか始まりました。式典では，司会の飯田泰一理事の開会のあと，森谷秀樹会長が式辞を述べ，引き続きご来賓を代表して東京歯科大学同窓会の天野　恵会長，東京歯科大学の金子　譲学長，東京地域支部連合会の大友　好会長，世田谷区歯科医師会の河村秀生会長よりご祝辞をいただきました。次に経過報告が尾﨑卓弘理事よりなされ，その中でこの10年の間に，世水会にご尽力いただくも亡くなられた物故会員に黙祷が捧げられました。また，会員表彰として在籍50年を迎えた14名，在籍30年の６名の会員と，会長の職責を勤められた４名の会員に対し，会長より感謝の意をこめ表彰状が授与され，受賞者を代表して山﨑　智会員より謝辞が述べられました。厳粛なる式典に続き祝宴は堀　正樹理事に司会を交代し，三島平八郎会員の乾杯の音頭で始まりました。お酒も入り会話が盛り上がる中，たくさんの皆様方よりお祝いのお言葉を頂戴したり，中尾俊郎会員のピアノ演奏やヴァイオリン四重奏もあり，あっという間に時間が経って盛会のうち，結びに同窓全員による校歌斉唱のあと濱上弘晴副会長による閉会の辞でお開きとなりました。世水会といたしましても，会員の益々の親睦と団結を計れて大変充実した時間が持てたと思っております。ご列席下さいましたご来賓の先生方には深く感謝いたします。また今年の３月には世水会創立70周年記念誌も完成の予定です。

(世水会専務担当理事　飯田泰一 記)

愛　知　県　支　部

平成16年度総会

師走も押し迫った平成16年12月26日(日)名鉄グランドホテルにおいて，大学より薬師寺　仁副学長，石井拓男千葉病院長。同窓会本部より大友　好副会長。宮村一弘県歯会長をお招きし，82名の参加を得て総会が開催されました。

瀧　義孝支部会長（S37卒）の時局を踏まえた挨拶の後，大友副会長より挨拶，同窓会本部報告，薬師寺副学長には挨拶，スライドを使用しての大学近況報をして頂きました。

物故会員篠田　穣先生（S38年卒）・久野　明先生（S11年卒）・竹村博之先生（S14年卒）・橋本喜久次先生（S12年卒）・岡田　亙先生（S35年卒）への黙祷の後，中川博史先生（S20年卒）に議長をお願いし，報告，議事も無事終了，愛知県が開催当番の東海地域支部連合会（平成17年９月18日（日）名古屋マリオットアソシアホテル）へ多数の出席をお願いした。続いて，愛知県知事表彰を受けられた成瀬　健先生，日歯会長表彰を受けられた澤國生先生に，会よりお祝いをさせて頂き，新入会員丹羽克誌（Ｈ４卒)・中村浩之（S56年卒）両先生の紹介の後，記念講演に移りました。

愛知県ゆかりの社会歯科学教授，石井拓男先生に『本学に於ける臨床研修制度』と題して，医科と違った道すじで導入されようとしている制度について，最初からその中心的役割を担って来られた石井拓男先生に限られた時間の中，指導的立場の本学の取り組みについて話して頂きました。

会場を変えての懇親会では，酒の入らぬ前，会長選をひかえた県歯会長宮村一弘先生に，現会長としての心情を入れた挨拶を頂き，今泉　功監事（S33卒）の乾杯で酒宴に入りました。最後は若手会員をバックに，薬師寺・石井両先生にも壇上にお願いし校歌を斉唱，おおいに語り，時を惜しみました。

（夫馬眞也 記）

熊　本　県　支　部

平成16年度『蘇山会』総会開催さる！

熊本県支部『蘇山会』の平成16年度総会が去る11月27日(土)午後６時よりホテル日航熊本に於て開催された。

添島義樹（平４年卒）の司会と開会後，中根俊吾熊本県支部長（35年卒）の挨拶と同窓会現況報告があった。次に添島義和（37年卒）を議長に選出し，河野生司（56年卒）の庶務，津田寿子（49年卒）の会計現況，緒方史郎（39年卒）の監査報告があり，続いて福嶋修治（51年卒）による同窓会評議員会報告があった。

引き続き議事に移り，15年度一般会計決算，同窓会懇親会決算，九州地区連合会会計決算と木村義浩（33年卒）の監査報告や17年度会計予算案&事業計画案など無事承認された。また今回は役員改選という大事な議事もあったが，全会員の承認で添島義和先生を次期支部長に決定した。

中根俊吾先生，長い間大変お疲れ様でした。今後は同窓会本部総務理

事としてご活躍下さい。

添島義和新支部長，これから『蘇山会』のまとめ役ご苦労様です。

総会後，記念撮影を行い，河野生司の司会で懇親会に移った。今回九州地区理事を引退された澤田　稔（25年卒）の乾杯で乾ききった喉を一気に潤し，宴は急速に盛り上がった。ほろ酔い気分で近況や懐かしい話で宴たけなわの頃，添島英輔（平11年卒）の指揮で校歌を斉唱し，木村義浩の万歳三唱で懇親会もお開きとなり，先生方は冷え込んできた夜の街に２次会，３次会へ意気揚々と足早に消えて行った。

今回はいつもより出席者の少ない総会だったが，来年は『蘇山会』新執行部のもと全会員の出席を望んで終了した。

（春野惟一 記）

クラス会だより

一　期　会

昭和28年卒

紅葉が日々に増す平成16年10月23日，卒後51回目の一期会総会が東京青山の加賀料理の浅田で開催された。当日は好い天気に恵まれ，会が始まる頃には月が冴え渡っていた。

総会は高橋（茂生）君の司会で，山本（勝）の開会の辞で始まり，会長多胡君の挨拶の後，北海道より参加した遠来の押尾君を議長に選出した。山本（勝）の庶務報告があり，その中で，母校新卒業者でその年度でもっとも優秀な大学院入学生に対しての奨学金“一期会賞(五回目)”を３月25日卒業式謝恩会の席で多胡会長から授与した旨の報告を行った。

その後，今年３月29日に逝去された片山　孝君のご冥福を祈って参加者一同で黙祷を捧げた。ついで，役員改選に移り，次期一期会の会長に西山　巖君，監事に見明　清君と山本（勝）が選出された。

一同記念写真の後，見明君の司会で懇親会に移った。司会の見明君から母校の金子学長の新任に伴う大学の近況報告があり，明石君の乾杯の音頭の後，珍味な料理を賞味し，お酒などを酌み交わしながら，四方山話に時の経つのも忘れて楽しいひと時を過ごした。

尚，酒宴の中程で，島野君からソ連の原爆実験の放射能の線量測定などで現地に出向したときの，貴重な体験談が紹介された。

参加者（順不同，敬称略）

同伴組：佐藤徹一郎，吉田　浩

単身組：阿部和雄，明石隆吉，今井豊享，畦森公望，大御雅文，押尾良悦，小池將浩，島野達也，多胡　彬，高橋茂生，西山　巖，兵藤佐一，見明　清，山本勝一。

（山本勝一 記）

いそむ会

昭和26年卒

いそむ会旅行によせて

今回のいそむ会旅行は同窓の故阿比留一郎君の奥様阿比留靖子様に現地幹事をしていただき筆舌に尽くしがたいご苦労をおかけいたしました。その後，原稿用紙四枚にも及ぶご丁寧な紀行文までご寄稿賜りましたのでここにほんの一部を載せさせていただきます。

年明けから準備万端整えいよいよ当日という時，予想だにしなかった台風に見舞われ，あわや中止か，と思われたのですが，先生方には万難を排して遠路おいでいただき無事対馬におつれすることが出来てホッと安堵の胸をなでおろしたことでした。対馬は素晴らしい秋晴れで機上からも島の様子がよくご覧になれたのではないでしょうか。ご挨拶もそこそこにバスに乗り込み観光へとガイドの案内よろしく明治33年日本海軍が掘削したと言われる人工の瀬戸に架けられた万関橋を渡り，海中に鳥居が立つ遠く神話の時代をしのばせる海宮「和多都美神社」に参り，リアス式の入り江がある「浅茅湾」（あそうわん）が見渡せる「上見坂公園」に上る。晴天で見晴らしも上々，私の住む厳原町に下る。対馬藩主の菩提寺「万松院」は，金沢の前田家，萩の毛利家の墓所とともに日本三大墓地の一つで桃山様式のどっしりと落ち着いた赤い山門，百雁木（ひゃくがんぎ）と呼ばれる石段百三十二段を上りつめたところに宗家歴代の墓地がありますが，ほとんどの先生方がお上りになり健脚でいらっしゃることに感心いたしました。

次に対馬藩の藩船を格納する「お船江」築堤の石積は当時の原形を保ち日本近世史上貴重な遺構だそうです。残念ながらバスの中よりの見学となりました。陽も西に傾きかけた頃，町の中心部に入り貴重な時間を裂いていただき主人の霊前に香を手向けて下さいましたこと異例のお計らいに感謝しております。

―中略―

33名のご参加でつつがなく大役を果たすことが出来ましたことを深く感謝申し上げます。後日「対馬がこんなにも大きく歴史の豊富な島だったとは……。もう少し時間が欲しかった」とのお声が聞こえて参りました。　　おわり

おかげ様で素晴らしく楽しい旅行が出来たこと全員一同奥様に深く感謝しております。ありがとうございました。来年は成田文治君の幹事が決まり，青森で開催されます。皆様奮ってご参加下さい。

（桑田　昇 記）

破　竹　会

昭和59年卒

我が89期「破竹会」は平成16年9月19日(日)に卒後20周年記念行事を開催しました。メインとなる懇親会に先立ち，午前11時半より虎ノ門の貸し会議室「オカモトヤ」にて20周年記念勉強会と特別記念講演，そして総会を行いました。

勉強会のテーマを「これまでの20年・これからの20年」として，鈴木聡行君，常磐　修君，牧野　明君，足立　融君の4名がプレゼンターを勤め「予防」をキーワードに各自の診療のスタンスを発表し，参加者からの活発な質問を受け，同級生ならではの本音で語り合える有意義なディスカッションになりました。参加者一同，4人の同級生の診療に対する真摯な態度に共感し，大きな収穫を得たようでした。この勉強会の模様は，日本歯科評論2005年3月に掲載される予定であります。

引き続き，当時私たちの学年副主任でありました井出吉信先生の学監および法人主事ご就任のお祝いをすると共に，「今大学では　―新しい歯科教育―」と言う演題で講演をしていただきました。最近の大学の状況や国家試験の傾向，臨床研修医制度などの話を聞き，今の学生の厳しさを知り，同級生一同20年前に卒業できたことにホッとしていました。

総会を終え，会場を新橋第一ホテル東京に移し，午後6時より懇親会を開催いたしました。

出席者は会員52名，家族3名，恩師3名総勢58名でした。司会進行は破竹会きってのエンターテーナー佐藤　剛君に勤めてもらい，最初に昨年急逝した鈴木（旧姓納富）正路君と学年副主任でありました故名波智章先生に全員で黙祷を捧げました。

ご来賓を代表して仁田原先生よりご祝辞を賜り，金光先生の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。続いて，昨年度より新潟大学歯学部の教授にご就任された齊藤　力先生のお祝いとして，花束贈呈を行い，ご挨拶を頂戴いたしました。会場内では，卒業以来20年ぶりに会う者もあり再会を喜びつつも，瞬時に学生時代にタイムスリップし笑い声の輪が広がり和やかな雰囲気となりました。そんな中，私たちより1年先輩で同級生原　良子君の御亭主である原　泰司先生のご好意でお借りできた校歌・校旗50周年記念作品『東京歯科大学』破竹会特別編（堤君がDVDに編集し直しました）を上映しました。当時の大変貴重な映像に感動し，まだ初々しい進1であった1978年のお互いの姿を懐かしく観て，「お前あんなにスリムだったっけ？」「あっ！髪がフサフサだ！」などと大いに盛り上がりました。

近況報告でマイクを離さぬ者，絶叫する者と宴も最高潮に達しました。次回2006年の総会開催場所を名古屋に決定，皆で再会を約束し，締めくくりに記念写真を撮影し盛会のうちお開きとなりました。

閉会後も名残は尽きず，その後二次会，三次会へと30人以上の仲間が時の経つのも忘れて深夜まで酒を酌み交わし，大いに歌い，語り明かしました。そして何年経ても変わらぬ友情を確認し，さらなる友好を深めた1日となりました。

（谷口　誠，堤　正幸 記）

OB会・グループ・サークルだより

薬師寺先生の副学長就任のお祝いの会

写真部OB会による

この度は喜ばしいことに，我が写真部の現役部長の薬師寺　仁先生が東京歯科大学の副学長に就任なさいました。『お祝いの会』を9月4日に懐かしき，水道橋の地の後楽園飯店で，前部長の見明先生をはじめOBの先生方と現役の部員とで開催いたしました。矢島会長より，お祝いの祝辞と体に気を付けてこれからのご活躍を期待する発言があり，前写真部の部長（名誉教授）の見明先生より，学校のため又，写真部の発展のためにご尽力をお願いしたい主旨の話がありました。懇親会では，全国のOBの先生方が集まっていただき，会場のあちこちで写真の品評会などなどが行われ，現役の部員とOBの先生方が仲睦まじく歓談し，現役部員からは，いまだに写真部の暗室で昔ながらに写真を焼いたりする活動を続けているなどの話で盛り上がり，次回は現役部員とOBの先生方との批評会，撮影会，校外展を開く予定を組むなど，薬師寺先生を囲み楽しい交流会が開催されました。終わりにあたり，笠井先生より，薬師寺先生に就任お祝いとし，写真部らしく何時でも，何処でも撮影ができるように，パナソニックのLUMIX（手が震えても，写真がぶれない手ぶれ補正つき）のデジタルカメラとその場で即印刷できるプリンターを贈呈されました。写真の話に花を咲かせた楽しい時間もタイムオーバーとなり，毎年暮れの総会での再会を誓い合って，しぶしぶ散会となりました。

写真部OB会のお問合せは
03－3591－0534　佐藤隆明まで
（昭和52年卒 原　正信 記）

管弦楽部第27回定期演奏会

管弦楽部第27回定期演奏会が例年のように11月23日に，稲毛キャンパスの講堂で開催されました。うららかな小春日和で絶好の演奏会日和となりましたが，今回は特に演奏開始前にロビーでプレコンサートも催されました。9台のチェロによって数曲のなじみのある曲を演奏して演奏前の雰囲気を大いに盛り上げました。

曲目は大胆にも2曲の交響曲を配したプログラミングです。ブラームス作曲「交響曲第1番」モーツアルト作曲「交響曲第40番」と，いずれも管弦楽部の長い歴史の中で初めて挑戦する難曲です。特にブラームスは作曲に30年を費やしたスケールの大きな曲です。演奏時間は50分に及ぶというこの大曲に学生諸君は4月以来7ヵ月をかけて懸命に練習を重ねてきました。不足のメンバーは医

科オーケストラの他大学の学生による賛助を仰いでいます。OB達もこの若い学生の中に混じって熱のこもった演奏に汗を流しました。現在の学生達の演奏レベルの向上には目を見張るものがあり，私達が現役として演奏していた頃と比較すると隔世の感があります。しかしオーケストラの中で一緒に演奏すると年の差はほとんど感じることはありません。皆音楽の下では平等で，いかに充実した良い演奏をするかということに集約されます。今回も出演したOBは気分だけは大いに若返って，学生の中で気炎を上げていました。聴衆の中に元部長の奥田克爾先生，OBの榊原悠紀田郎先生のお顔を拝見できたのも嬉しいことでした。来年の定演にはもっとOBの参加を増やそう，と確認して第27回の定演も好評のうちに幕となりました。

参加OB　多胡　彬（Vn.S28），山本勇人（Vn.S60），西山和秀（Vn.H12），小　川　学（Va.S51），岡崎　真（Va.H９），水野剛志（Cl.H16），矢崎宣利（Fg.S48），野津秀郎（Hr.S50），加藤広之（Trb.S57）

（昭和51年卒 小川　学 記）

自動車部OB会 房総ミーティング

秋晴れの11月27日（土），28日（日）の２日間，自動車部OB会の第５回，轍会房総ミーティングが千葉の館山で開催されました。

27日午後４時宿泊地，ホテルアクシオン館山に集合，午後５時より自動車部OBの角田教授による「混合診療」についての学術講演が有りました。混合診療の定義もはっきりせず，日本歯科医師会の現状を見ると官僚の言いなりでしょう。

７時より宴会に移り地元で獲れた，特大の鯛の刺身と大量の酒で大いに盛り上がり，二次会では創部当時の貴重な話を先輩の諸先生方より伺うことができ，50周年記念誌に原稿をお願いいたしました。

翌日は，勝浦の朝市へ，甘酒を飲みながら見学，昼食は，11月下旬とは思えない温かい日が続く気候で，紅葉ももう少しの亀山湖温泉ホテルで休憩の後，来年神奈川県での開催と再会を楽しみに散会いたしました。

（昭和45年卒 実成　誼 記）

庶　務　日　誌

1月

1)　理事会

1月15日(土)　第1回理事会

2)　委員会

1月12日(水)　広報部委員会（会報編集）
12日(水)　学術部委員会（学術部情報委員会）
13日(木)　28校学術連絡会，世話人会準備委員会
14日(金)　学術部委員会（学術部研究委員会）
17日(月)　学術部委員会（運営委員会）
19日(水)　学術部委員会（運営委員会）
21日(金)　情報部委員会
24日(月)　学術部委員会（企画委員会）
26日(水)　学術部委員会（プログラム委員会）
31日(月)　学術部委員会（運営委員会）

3)　出　張

1月7日(金)　千代田支部新年会　　安藤専務理事出席
14日(金)　芝支部総会並びに新年懇親会
馬橋常任理事出席
15日(土)　東京地域支部連合会新年交歓会
28日(金)　浅草・下谷支部合同新年賀詞交歓会
黒須常任理事出席
29日(土)　杉並支部新年交歓会　大井常任理事出席

4)　事　業

1月15日(土)　カリキュラム研修ワークショップ
（大学・同窓会共催）
16日(日)　カリキュラム研修ワークショップ
（大学・同窓会共催）

2月

1)　理事会

2月16日(水)　第1回常任理事会

2)　委員会

2月1日(火)　学術部委員会（運営委員会）
2日(水)　保険部委員会
3日(木)　厚生部委員会
4日(金)　学術部委員会（運営委員会）
7日(月)　学術部委員会（学術部情報委員会）
9日(水)　学術部委員会（学術部研究委員会）
10日(木)　広報部委員会（会報企画）
14日(月)　学術部委員会（研究委員会）
17日(木)　学術部委員会（研修委員会）
21日(月)　情報部委員会
24日(木)　学術部委員会（運営委員会）
28日(月)　学術部委員会（企画委員会）

3)　出　張

2月5日(土)　第17回全国歯科大学同窓校友会学術連絡会
6日(日)　第17回全国歯科大学同窓校友会学術連絡会
11日(金)　埼玉県支部新年会　　池田副会長出席
19日(土)　北多摩支部総会・懇親会
増田常任理事出席
20日(日)　三重県支部総会　　高原常任監事出席
学術講演会　講師・石川達也名誉教授

平成17年度（第29回）全国同窓囲碁大会開催のお知らせ

今年度の全国同窓囲碁大会を下記により開催致しますのでご予定下さい

日　　時：平成17年4月24日（日）午前11時試合開始
会　　場：市ケ谷　日本棋院会館
指導棋士：鈴木　歩　女流最強位
参 加 費：12,000円（懇親会費を含む）
参加申し込み：FAX　03－3871－4180
はがき　〒110-0003　東京都台東区根岸3－7－1　高橋　一祐 宛

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

（敬称略・届出順）

●推　薦	稲川英一（93歳）		前立腺癌	16.11.14
京橋支部	〒225-0011	横浜市青葉区あざみ野2－17－13		
●昭12卒	宮島照夫（90歳）		肺炎	16.11.10
徳島県支部	〒779-3403	吉野川市山川町前川13－2		
●推　薦	田中英一（90歳）		急性心不全	16.11.14
川崎支部	〒214-0021	川崎市多摩区宿河原4－26－9		
●昭6卒	青山三郎（95歳）		腎不全	16.11.16
千葉県支部	〒272-0826	市川市真間2－24－8		
●昭23卒	黒沢俊夫			年月不詳
●昭33卒	渡邉公武（71歳）		上行結腸癌	16.11.29
足立支部	〒120-0026	足立区千住旭町9－17		
●昭12卒	守屋榮二（92歳）		上顎癌	16.11.27
岡山県支部	〒703-8293	岡山市小橋町2－2－3		
●昭9卒	田村清蔵（97歳）		脳梗塞	16.12.12
千葉県支部	〒273-0003	船橋市宮本8－3－6		
●昭25卒	金子忠利（76歳）		心不全	16.12.22
神奈川西湘支部	〒259-0303	神奈川県足柄下郡湯河原町土肥2－16－6		
●昭27卒	長浜九十九太郎（76歳）		肝臓癌	16.12.22
大分県支部	〒870-0936	大分市岩田町3－6－11　長浜矯正歯科		
●昭11卒	板垣正太郎（90歳）		肺炎	16.12.25
青森県支部	〒036-8345	弘前市大字蔵主町3		
●昭19.9卒	大野祐之（81歳）		呼吸不全	16.10.20
静岡県支部	〒424-0066	静岡市清水七ツ新屋2－6－11		
●昭35卒	小俣好文（68歳）		虚血性心疾患	16.12.24
神奈川湘南支部	〒242-0006	大和市南林間1－3－9		
●昭20.9卒	金森昇（84歳）		大腸癌	16.12.27
長崎県支部	〒851-3502	長崎県西彼杵郡西海町川内郷1248　金森歯科診療所		
●昭13卒	黒崎弘毅（88歳）		肺炎	16.12.27
栃木県支部	〒320-0811	宇都宮市大通り1－1－14		
●昭29卒	髙橋良昌（75歳）		食道癌	17. 1.13
北支部	〒335－0002	蕨市塚越3－16－9		
●昭8卒	岡村金次（93歳）		肺炎	17. 1.10
千葉県支部	〒157－0076	世田谷区岡本2－28－9		
●昭13卒	中村正夫（90歳）			17. 1.16
茨城県支部	〒304－0067	下妻市大字下妻乙307－2		
●昭26卒	公平泰行（79歳）		呼吸不全	17. 1.15
山形県支部	〒990－1101	山形県西村山郡大江町左沢548－2		
●昭9卒	脇　惠一郎（101歳）		肺炎	17. 1.16
三重県支部	〒550－0001	大阪市西区土佐堀3－4－12		
●推　薦	葛西米市（84歳）		心筋梗塞	17. 1.17
香川県支部	〒760－0068	高松市松島町2－3－16		
●昭26卒	内田安正（79歳）		急性心不全	17. 1.18
愛知県支部	〒467－0056	名古屋市瑞穂区白砂町1－49－1		

●昭 34 卒 田 中 啓 行（70歳） 茨城県支部 〒300－0033 土浦市川口１－10－17		17. 1.18
●昭 32 卒 金 内 洋 一（73歳） 秋田県支部 〒010－0001 秋田市中通３－４－27－1004	膵 臓 癌	17. 1.18
●昭 32 卒 中 村 英 雄（72歳） 練馬支部 〒178－0061 練馬区大泉学園町８－７－12	肺 癌	17. 1.13
●昭 30 卒 井 川 貞 幸（74歳） 静岡県支部 〒424－0818 静岡市清水江尻町10－28	敗 血 症	17. 1.24

渡邉公武君を悼む

六喜会（昭和33年卒）

平成16年11月29日早朝，ご子息から悲報が入った。父が今朝，亡くなったとの由，驚いた。

１週間前，横浜の長塚君と二人で彼をお宅に見舞った時，奥さんを交えて40分程雑談をした。少々疲れている様子だが相変わらず元気な姿だった。今朝の訃報が信じられなかった。唯々無念の一言に尽きる。

彼は９月初旬，体調不良で緊急入院，上行結腸部に腫瘍を指摘され，摘出手術，その後，療養に専念するも病状の急変は為す術も無く，誠に不本意な結末になってしまった。

昭和33年卒業，足立区北千住に開業，明るい性格，強健な体力で45年間，地域医療の担い手として，第一線で活躍してきた。

その間，優れた先見性，素早い決断力，実行力を周囲が見逃すわけがなく，足立区歯科医師会の理事，副会長職を経て，東京都社保審査委員等，数々の激務を全うした。

又，東京都歯科医師会理事として医事処理を担当，当時増加の一途にあった難問の対応には大変苦労したようだった。又足立選出で16年有余に及ぶ，都歯代議員としての活躍は忘れられない。

後年，同窓会の理事，天野会長のもと副会長としてその責務を完結出来なかったことは，さぞかし心残りだったと思います。

遺されたご家族は，愛妻君子様，慶應義塾大学医学部口腔外科学教室に勤務するご子息とご夫人，二人のお孫さんに囲まれ，これからゆっくりと過ごしたかったのではないだろうか。永い間，会務お疲れさまでしたと申し上げます。

君は若い頃より，こよなく酒を愛し，ナベさんの愛称で多くの友人に恵まれ，機知に富んだ言動は常に周囲を楽しませてくれた。又，酒にまつわるエピソードや，武勇伝の数々は，これからも後輩達により永く語り継がれることでしょう。ご苦労さまでした。

やっぱり君は「サムライ」だった。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

（瀬田和夫 記）

小俣好文君を偲んで

八紫会（昭和35年卒）

「小俣」が突然旅立ってしまった。多くの持病もあったが，地元歯科医師会50周年記念事業を仕切っている最中突然の訃報だった。市川予科の入学当時，神奈川県の基地の町，リンカン（林間）から来てると聞き，リンカーン（大統領）という町が本当にあると思っていたのを思い出す。卒業後大和市で一緒になり，50年の付き合いになった。若年にして教育委員長，歯会会長等々，市の雄となり，体形もウエスト「100cm」を越す貫禄で，あの目立たないスマートな「小俣」がと仲間達は驚かされた。それは変身というよりも「才能」と「限りない努力」にあったと思っている。又有能な奥方と長女（医師），次女，三女（歯科医師）に恵まれた彼が「娘と一緒に並んで診療がしたい」と云う夢をはたし，孫達と遊ぶ好々爺になった頃から幾つかの病魔におかされ，体形も昔に戻り細くなってしまったが，役職には弁慶のように頑張り通すのが彼の美学だった。又他人の面倒見がよく，いつも心から親切だったよな。もう「遅かれ早かれ」の年まで生きたんだから残念でさびしいけど，少し楽になってくれよ。出棺の時，大親友だった奥川夫妻が富山から駆けつけ，顔に花びらをそえたときが一番うれしそうな表情にみえた。

合掌

（鈴木靖彦 記）

◆投稿規定

(1) 原稿締切り
原稿の締切りは，奇数月の10日までとし，原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし，便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを，大きいサイズ（2Lなど）で，集合写真のみでなく，スナップなども添えて下さい。

(3) 投稿字数
① 「すいどうばし」欄（随想，詩，短歌，時評など）は，1編1,600字程度
② 「支部のうごき」「クラス会だより」は，本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合，3段抜き900字，2段抜き400字，1段抜き200字減らして下さい。
③ 「追悼」は，500字程度

(4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし，紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので，ご了承下さい。
なお，掲載については委員会にご一任いただきます。

(5) 写真等の返却
写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真などの場合は，その旨書き添えて下されば返送いたします。

◆へんしゅうこうき

★ 母校だよりの「第14回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ」を私も受講してきました。平成18年からの歯科医師臨床研修必修化に向けた指導歯科医養成のための講習会です。

ワークショップとは成人教育学の教科書によれば「小グループで意見交換や共同作業を行いながら進める参加型学習の技法を組み合わせた，一つの目的を持ったもの」ということだそうです。講義は少なく，ノーネクタイでお互いを「さん」付けで呼び合う（病院長も例外ではありません）なかなか楽しくかつハードな講習会でした。皆さんもぜひワークショップを体験してみてください。

★ 学術欄「TDC卒後研修ベーシックセミナー」のチュートリアル形式も参加型の学習です。ワークショップ等には先生がいません。そのかわりタスクフォース（ファシリテーター）という共同作業が暗礁に乗り上げたときにだけ支援してくれるスタッフがいます。あくまで学習者が中心です。また最近では診療でも医者中心の医療から患者中心の医療へと流れが変わっています。正解を答える教育やパターナリズムの医療から，受ける側の主体性を重んじる抑圧されない社会へという変革の流れがあります。翻って歯科医師会では会員中心の会に向かっているのでしょうか？会員の意向を汲み取るシステムは今のままでよいのでしょうか？

★ 「今年は心気一新して良い年に」という新年の挨拶が，歯科界のあちこちで交わされたと想像しています。昨年の歯科界は逮捕者も出た最悪の年でした。「昨年の重苦しい気分を流し去って新たに」という気持ちは皆同じだと思います。しかし仏教では悪因悪果といいます。悪い結果には悪い原因があります。昨年の悪い結果を起こした歯科界の隠れた悪い原因はまったく変わっていません。また直面している歯科界の悪い状況もまた同じです。ところで善因善果とも仏教ではいいます。今年は新たな良い結果を生むための「種子」がたくさんできれば良いのですが……

★ 巻頭言にもあるように，今年東京歯科大学同窓会は前身である「院友会」が1895年に発足して以来110周年になります。記念すべき良い年となりますように。

（三友和夫 記）

広報部委員会
広報担当理事 大井 基道
委員長 小林 伯男
副委員長 野村 淳
林 量一
委員 黒澤 珍介
河田 英司
臼田 準
三友 和夫
尾﨑 圭子

平成17年2月20日 印刷
平成17年2月25日 発行
東京歯科大学同窓会会報 第344号
同窓会ホームページアドレス
http://www.tdc-alumni.jp

発行人 大井 基道
編集人 小林 伯男
東京歯科大学同窓会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
電話 (03) 5275-1761
FAX (03) 3264-4859
印刷所 一世印刷株式会社
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
電話 (03) 3952-5651 (代)

東京歯科大学同窓会

団体所得補償保険のご案内

先生方からのご要望を反映して、同窓会団体所得補償保険（（社）日本歯科医師会団体契約）の商品内容を充実いたしました！

<保険期間：平成１６年１１月１日から１年間　※中途加入随時受付中>

①入院による就業不能を１日目からお支払いするプランを新設いたしました！

NEW!

<入院による就業不能時追加担保特約>

②精神障害の一部を新たに補償の対象といたしました！

NEW!

加入者全員

<精神障害担保特約>

【本特約付帯により支払い対象となる精神障害】
　気分障害（躁病・鬱病）、統合失調症、神経衰弱、チック障害など
【本特約を付帯しても支払いの対象とならない精神障害】
　アルツハイマー、痴呆、性機能不全、アルコール依存症、薬物依存、依存を生じ得ない物質の乱用など。
（既往症についてはお支払いの対象外となります。予めご了承下さい。）

③天災（地震・噴火・津波）によるケガで就業不能となった場合も補償いたします！

加入者全員

<天災危険担保特約>

④新たに傷害保険（入通院補償）も選べるようになりました。

NEW!

<団体普通傷害保険>

※団体所得補償保険の詳細につきましては、パンフレットをご覧下さい。
　ご要望の先生は下記代理店までお申し付け下さい。

同窓会指定取扱代理店：**日本保険マネジメント株式会社**

専用フリーダイヤル　0120−463−176　FAX 0120−463−175

<引受保険会社>　**東京海上日動火災保険株式会社**

H16.12作成　1340-04-024

新しい素材が根管充塡のスタイルを広げます。

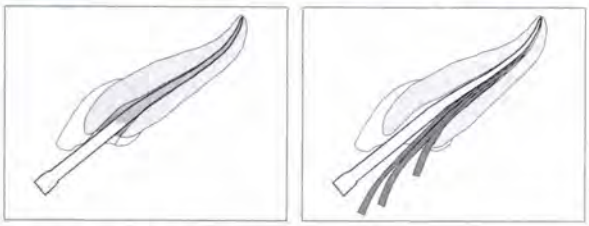
TÜV CERT ISO 9001 ISO 13485 E N 46001 認証取得

同じだけど違う!

Same but Different

保険診療対応。
加圧根管充塡が算定頂けます。

マスターポイントとしてお使い頂けます。



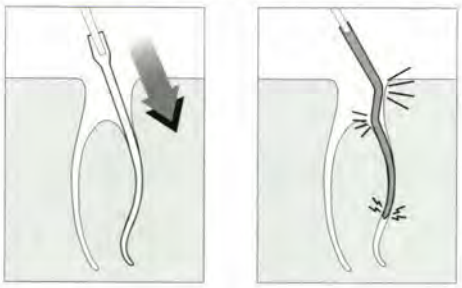
ラテラルコンデンスの場合、アクセサリーポイントはガッタパーチャ製をお使い頂きます。
余剰部分は加熱したインスツルメントでカットできます。この際、ガッタパーチャを切除するときより高めに加熱します。
※溶剤で軟化させることはできません。シーラー併用です。
※製品添付の取扱説明書をよくお読みのうえご使用下さい。

ポイントの除去が可能です。
根管内にエンジンリーマーを挿入すると、ポイントに沿ってリーマーが簡単に入ります。ある程度エンジンリーマーが入ったらハンドリーマーやファイルを用いて除去して下さい。

簡単に切削できます。
スチールバーでもピーソリーマーでも、簡単に切削できます。

ISO規格(ISO6877)に準拠しています。
エックス線造影性 6.6mm
サイズ ISO 20 25 30 40 50 60 70

フレキシブル!
コシが強く柔軟性が高いため、細い根管への挿入が容易です。



オートクレーブ滅菌に対応しています。
円筒容器ごとオートクレーブ滅菌できます。

根管長測定のX線撮影にお使い頂けます。
造影性・耐久性が高く、リーマー等に替わり安全にご使用頂けます。

均質です。
機械化された射出成形により、均質でサイズ精度の高い品質を確保しています。

生体親和性の高い材質です。
フレックスポイントの皮下埋入試験
兎背部の表皮下に#30のフレックスポイントとガッタパーチャポイントを4週間埋入

<組織像>

<フレックスポイント>　<ガッタパーチャポイント>

ポリプロピレン
医療材料、食品包装、衣類、家電製品などに広く使われている樹脂で、剛性、耐熱性、耐湿性、耐薬品性、耐曲げ疲れ性などに優れた特性を持ちます。また、内分泌かく乱物質(環境ホルモン)を含まないプラスチックとしても知られています。

フレックスポイント「ネオ」の組織反応はガッタパーチャポイントより軽微であり、歯科材料としての組織為害性には問題ないと判断できます。

NEW!

FLEXPOINT® NEO

歯科用根管充塡ポイント

フレックスポイント®「ネオ」

医療用具承認番号　21300BZZ00184000
日本特許 第3174944号／米国特許 6024569

組　成　ポリプロピレン／硫酸バリウム
包装価格　単　品　５０本入　3,000円
セット　５０本入　3,000円
#30～70各10本 入り
(#20#25は入っていません。
単品包装をご利用下さい)

ネオ製薬工業株式会社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾3丁目1番3号
Tel.(03)3400-3768(代)　Fax.(03)3499-0613

ネオ製薬ホームページ
最新の製品情報を掲載
http://www.neo-dental.com/

NF0203

Happy Smiles & Heartful Communication

MORITA

Er:YAGレーザー治療なら、
痛みの少ない治療ができるって
聞いたんですけど？

コンパクトなボディにぎっしり詰まった高機能
Er:YAGレーザー装置

アーウィン アドベール

11種類の多彩な「コンタクトチップ」と共にデビュー!!

● 主な使用目的と効能・効果 ●

硬組織疾患 効能・効果／蒸散
- う蝕除去
- くさび状欠損の表層除去

歯周疾患 効能・効果／切開・蒸散
- 歯周ポケットへの照射
- 歯石除去
- ポケット掻爬
- 歯肉整形
- フラップ手術

軟組織疾患 効能・効果／切開・止血・凝固・蒸散
- 小帯切除
- 歯肉切開・切除
- 口内炎の凝固層形成
- 色素沈着除去

11種類の多彩な
アーウィン アドベール
コンタクトチップ
（レザチップ）

Er:YAGレーザー装置　アーウィン アドベール

■標準価格 5,980,000円 ●医療用具承認番号 21500BZZ00720 ●医療用具承認番号21500BZZ00721
※標準価格は2004年1月現在のものです。標準価格には消費税等は含まれておりません。
※仕様及び外観は製品改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

品質マネジメントシステム ISO9001 認証 JQA-0933
環境マネジメントシステム ISO14001 認証 JQA-EM0543

開発・製造　株式会社モリタ製作所

株式会社モリタ
東京本社　東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
大阪本社　大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525

株式会社モリタ製作所
本社工場　京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL:075-611-2141
久御山工場　京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190 〒613-0022 TEL:0774-43-7594

株式会社モリタ東京製作所
本社工場　埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24 〒338-8538 TEL:048-852-1315
伊奈工場　埼玉県北足立郡伊奈町小室7129 〒362-0806

MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better

当医院の約束です。
きれいな手で
歯を治療します。

▼

ゴミも出しません。

衛生的な環境 手を差し出すだけのノータッチ乾燥だからとても衛生的。治療はいつも清潔な手で。

ゴミ0（ゼロ）トイレ ゴミの出ない、美しいトイレを実現。お掃除の手間も不要。10円※で370回使える経済性も魅力。
※1回につき使用時間6秒、電気代22円／kwh（税込）として。

スピード乾燥 風速90m/秒、両面ジェットの風で5～6秒のスピード乾燥。患者さんをお待たせしません。

上記特長はスリムタイプを中心に説明しています。

両面ジェット風でスピード乾燥

抗菌
スリムタイプ
JT-SB116D形（100V）
JT-SB216DS形（単相200V）
希望小売価格197,400円
（税抜価格188,000円）

抗菌
ハイパワータイプ
JT-WB220CS2形
（単相200V）
希望小売価格
231,000円
（税抜価格
220,000円）

カウンタートップタイプ
JT-K10A3形
（100V）
希望小売価格
197,400円
（税抜価格
188,000円）

抗菌
ミニタイプ
JT-MC107E形
（100V）
JT-MC207ES形
（単相200V）
希望小売価格
102,900円
（税抜価格
98,000円）

ビルトインタイプ
JT-BC110A2形
（100V）
希望小売価格
207,900円
（税抜価格
198,000円）

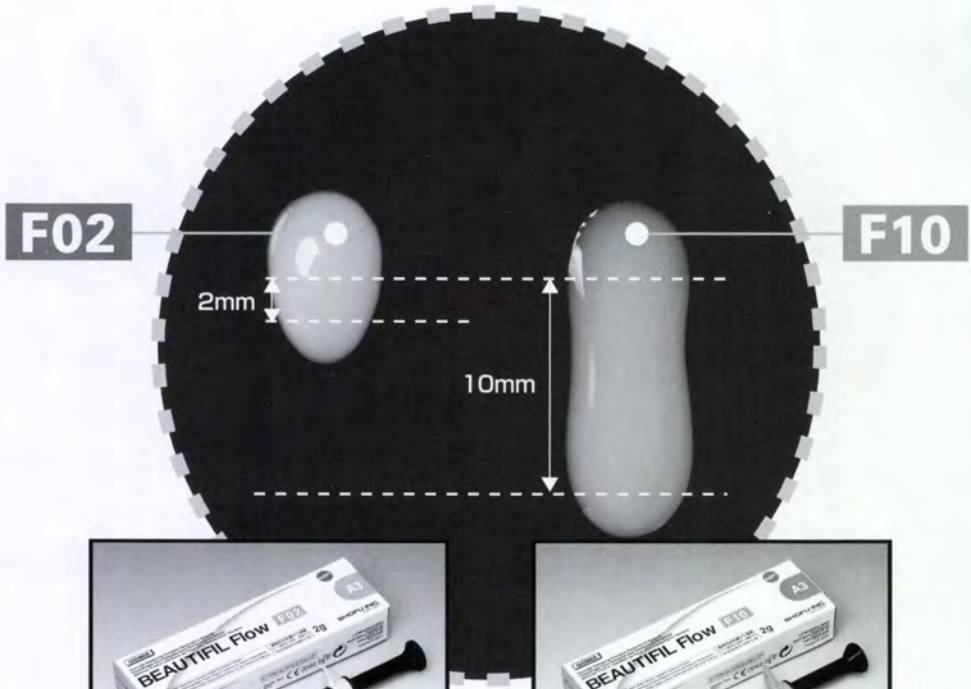
三菱ハンドドライヤー
ジェットタオル®
www.MitsubishiElectric.co.jp/jettowel

人と暮らしの夢づくり
Advance to the Next

三菱電機株式会社 中津川製作所 新事業推進グループ 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1-3 TEL 0573-66-8219

BEAUTIFIL Flow

使いやすさにこだわった フロアブルコンポジットレジン



F02 低流動タイプ

形態を維持して欲しい部位への使用に最適!

F10 高流動タイプ

凹凸部や狭窄部の複雑な部位、薄い層でさまざまなキャラクタライズを施したい部位への使用に最適!

医療用具承認番号 21600BZZ00147

光重合型グラスアイオノマー系コンポジットレジン

ビューティフィル フロー

2g…各¥2,700

※価格は2005年2月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

世界の歯科医療に貢献する
株式会社 松風
●本社:〒605-0983京都市東山区福稲上高松町11・TEL(075)561-1112(代)
http://www.shofu.co.jp
●支社:東京(03)3832-4366 ●営業所:札幌(011)232-1114/仙台(022)299-2332/名古屋(052)709-7688/大阪(06)6252-8141/福岡(092)472-7595

診療を受ける患者さん
診療をおこなうドクター
双方に幸福感を与えるユニット

人とユニットの新しい関係

Euphoria

ユーフォリア

ユーフォリアはデンタルユニットであるにもかかわらず、
置かれる空間までもユニットに取り込み、患者さんが
リラックスでき、ドクターも快適な診療をおこなえる
理想的な空間を創り出します。

ユーフォリア
医療用具承認番号21300BZZ00397
¥3,386,000～

長田電機工業株式会社
〒141-8517 東京都品川区西五反田5-17-5
TEL 03(3492)7651 FAX 03(3492)7506

http://www.osada-electric.co.jp

※商品は改良の為、予告なしに仕様を変更することがありますので予めご了承下さい。
※詳しい資料ご希望の方は商品名、掲載誌名を明記の上、
本社お客様センター宛にご請求下さい。

NISHIKA

こんな局所麻酔剤が欲しかった!

短時間処置に最適 **30分**

- **リドカイン製剤と同等**の麻酔効果
- 治療後の**しびれが速やかに消失**

●しかも**安心**の 血管収縮薬 パラベン 亜硫酸塩 **無配合**

塩酸メピバカイン製剤 ～世界40ケ国で30年以上の使用実績～

スキャンドネスト® カートリッジ3%

歯科用局所麻酔剤 日本薬局方 塩酸メピバカイン注射液

劇薬 指定医薬品 | 薬価基準収載 | 薬価 1.8mL 1管:97.00円 | (貯法)室温保存

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)本剤またはアニリド系局所麻酔薬に対し過敏症の既往歴のある患者

※効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔輸入発売元〕
NISHIKA 日本歯科薬品株式会社
本社 〒750-0015 下関市西入江町2-5 お客様窓口 0120-8020-96
[ホームページ] http://www.nishika.co.jp/

〔製造元〕
septodont セプトドント社
フランス

歯科鋳造用陶材焼付貴金属合金タイプ１

ケイアイケイ
KIK

Atlas

KIK　アトラス　許可番号 11BZ0269

時の流れをこえたクオリティの高さ

上質なゴールドカラーで、
審美性も抜群

●成　　分：金86.5%　白金11.3%　その他
●溶 融 温 度：液相点—1125℃　固相点—1050℃
●色　　調：黄金色
●熱膨張係数：14.4×10^{-6}K^{-1} (50~500℃平均)
●質　　量：10g

●物理的・機械的特性

硬さ(HV)		耐力(MPa)		伸び(%)		密度
鋳　造	グレーズ	鋳　造	グレーズ	鋳　造	グレーズ	(g/cm^3)
180	220	490	570	6	7	18.8

製品名	成　分				液相点	硬さ	耐力	伸び
	金	銀	白金	パラジウム	(℃)	(HV)	(MPa)	(%)
KIK	85.5	0.5	4.0	8.0	1200	170	400	4
KIKハードⅡ	72.0	2.8	13.0	9.7	1290	210	420	5
KIKルミナス	75.0	2.9	10.0	10.0	1295	210	410	5
KIKゴールド	86.7	—	10.7	—	1100	140	260	10
KIKジースリー	84.5	0.4	10.8	1.0	1180	210	400	6
KIKノーブル	45.0	—	—	46.0	1280	220	450	18
KIKエイブル	40.0	19.5	—	35.0	1270	275	480	6
KIKウィング	—	—	—	81.0	1290	250	450	23

■詳細につきましては、弊社までお問い合わせください。
ホームページ：http://www.ishifuku.co.jp

ロンドン金市場公認溶解検定業者／(社)日本金地金流通協会正会員／㋪金銀パラジウム合金 JIS表示許可工場

㊧石福金属興業株式会社　歯科材販売

本　　社：〒101-8654　東京都千代田区内神田3丁目20番7号
TEL.03-3252-8471(直通)　FAX.03-3252-8475
大阪営業所：〒550-0005　大阪市西区西本町1丁目13番36号
TEL.06-6532-1351(代)
名古屋営業所：〒450-0002　名古屋市中村区名駅5丁目22番10号
TEL.052-563-1201(代)
九州営業所：〒802-0002　北九州市小倉北区京町3丁目13番13号
TEL.093-531-9331(代)

適度に流れる。
ねらった部位にしっかりとどまる。
耐摩耗性をプラス。

ユニフィルローフロープラスで採用した
高密度X線造影性有機無機複合フィラー

DRハイブリッドレジンの開発により、高い評価をいた
いているユニフィルローフローの「操作性（適度な流
）」と、従来の臼歯部用コンポジットレジンに匹敵する
耐摩耗性」の両立を初めて実現。
前歯部の修復はもちろんのこと、臼歯部咬合面にも安心
てご使用いただけます。

新開発
HDR
High Density Radiopaque
Pre-polymerized Filler

新色（PA2、PA3、E、CVD）の
4色をラインナップ

臼歯と前歯では、エナメル質の厚みが異なるため、口腔
内で見える色調も異なります。そこで、ローフロープラス
には、色調についても臼歯部の充填に最適なPA2（ポ
ステリアA2）、PA3（ポステリアA3）の2色をご用意しま
した。PA2・PA3は、A2・A3に比べてやや白く、不透明
感の強い設計になっています。
また、ご要望の高いE（エナメル）色と濃い歯頸部用の
CVD（サービカルダーク）色も追加しました。

色調●12色＝A1、A2、A3、A3.5、A4、AO3（オペークA3）、CV（サービカ
ル）、CVD（サービカルダーク）、BW（ブリーチングホワイト）、PA2（ポステリ
アA2）、PA3（ポステリアA3）、E（エナメル）

全12色

前歯部はもちろんのこと
臼歯咬合面にも安心して使える
理想のフロアブルレジン。

光重合型フロアブルコンポジットレジン

ユニフィル® ローフロー プラス

販売・希望医院価格●1歯：シリンジ 1.3g（0.8mL） 2本、フィリングチップ ニード
ルタイプ/プラスチックタイプ各2本、フィリングチップ用キャップ2個＝¥4,100

医療用具許可番号 22BZ0075号

株式会社 ジーシー

GIC（デジタルインフォメーションセンター）
東京都文京区本郷3-2-14 〒113-0033
フリーダイヤル 0120-416480
受付時間 9:00a.m.～5:00p.m.（土曜日、日曜日、祭日を除く）
※アフターサービスについては、最寄りの営業所へお願いします。
www.gcdental.co.jp/

店●東京（03）3813-5751 ●大阪（06）4790-7333 営業所●北海道（011）729-2130 ●東北（022）283-1751 ●名古屋（052）757-5722 ●九州（092）441-1286

掲載の価格と参考データは、2004年4月現在のものです。※価格は希望医院価格です（価格には消費税は含まれておりません）。

歯科技工学科

高等学校卒業以上・昼間2年制

歯科技工専修科

歯科技工士の資格を有する者・昼間2年制

●平成17年度 入学試験日程

一般入試	
D日程	2月11日(金)
E日程	3月 5 日(土)
F日程	3月19日(土)

★願書受付中

■体験入学スケジュール

2月19日(土)
9:00～12:00

2月26日(土)
9:00～12:00

歯科技工士希望の皆様の
ご参加をお待ちしております

お申込みはTEL、FAX、
はがき、Eメールで。

理事長
歯学博士
大塚昌助
(東歯大34年卒)

校　長
歯学博士
大塚弘介
(東歯大36年卒)

顧　問
東京歯科大学 学長
金子　譲

東技専 TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

東京歯科技工専門学校
TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

〒141-0031 東京都品川区西五反田5-1-10　(東急目黒線不動前徒歩２分)
TEL 03(3492)4221(代)　FAX 03(5436)8925
URL http://www.tdct.ac.jp　E-mail:tdct@nifty.com